第 4 章
ひとり親・保護世帯の調査結果

第４章　ひとり親・保護世帯の調査結果

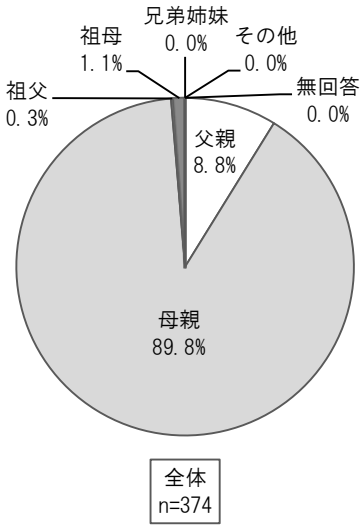
１　回答者とその世帯について

○本調査への回答者は、「母親」（89.8%）が約９割を占め、次いで「父親」（8.8%）となっています。

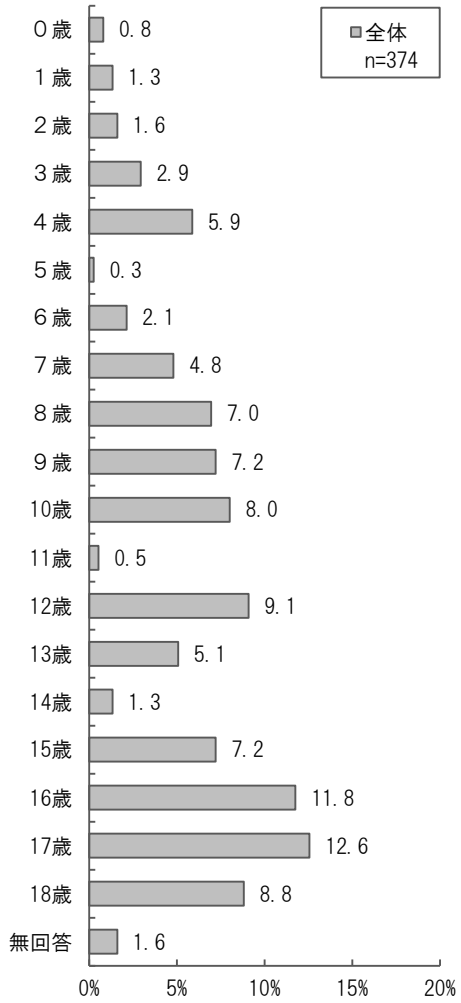
○回答者の年齢は、「40～49歳」（42.5%）が最も高く、次いで「30～39歳」（37.4%）となっています。

○子どもの年齢は、「17歳」（12.6%）が最も高く、次いで「16歳」（11.8%）、「12歳」（9.1%）となっています。

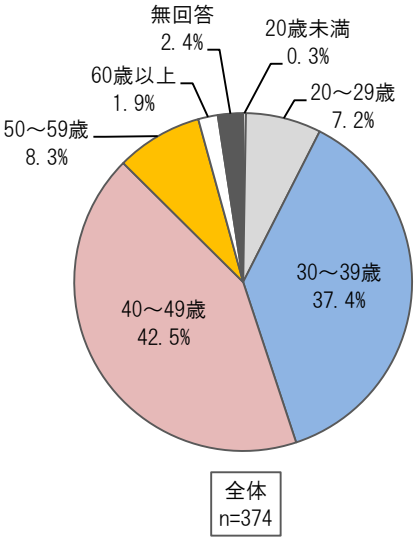
問1　調査の回答者



問2. 1　子どもの年齢



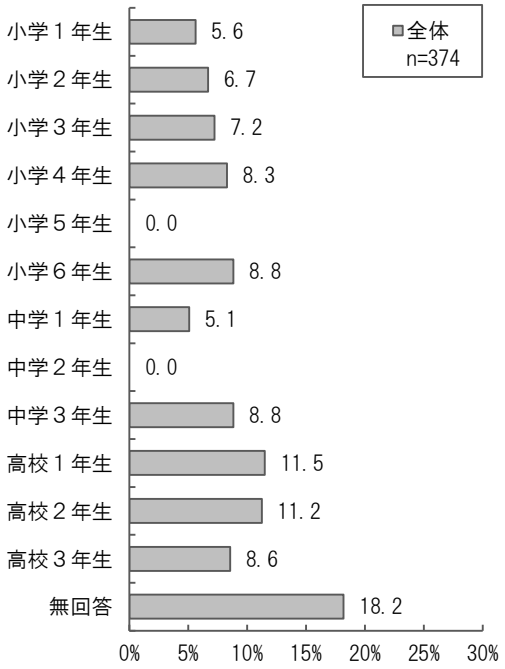
問2. 3　回答者の年齢



※全体…⑦、⑧（P5参照）の調査票に回答した方を合計しています。

○子どもの学年をみると、「高校１年生」（11.5%）が最も高く、次いで「高校２年生」（11.2%）となっています。

問2.2　子どもの学年



○現在の婚姻状況をみると、「結婚している（事実婚を含む）」（7.0%）は１割未満、「離婚」「死別」「未婚」を合わせると88.7%となっています。

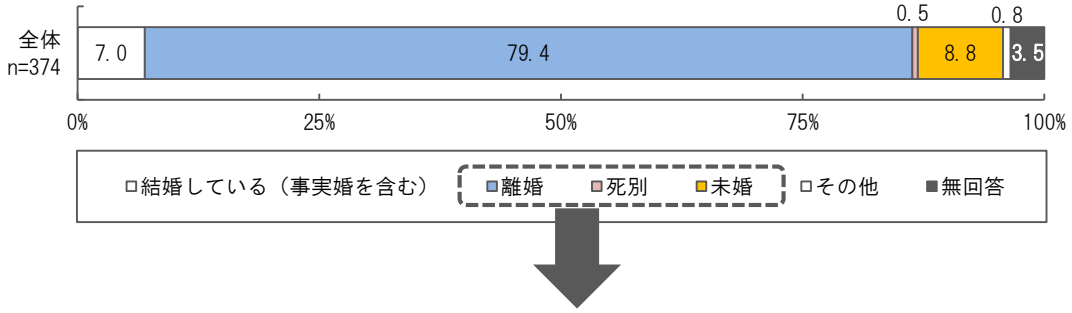
○ひとり親家庭になった年齢は、「30～39歳」（40.4%）が最も高く、次いで「20～29歳」（28.6%）、「40～49歳」（13.0%）となっています。

◎ひとり親世帯の親は、現在は40歳代、離別時は30歳代が最も多くなっています。子どもは高校生が最も多いことから、子どもが幼少期にひとり親世帯となり、現在は祖母などの力を借りて生活している様子がうかがえます。

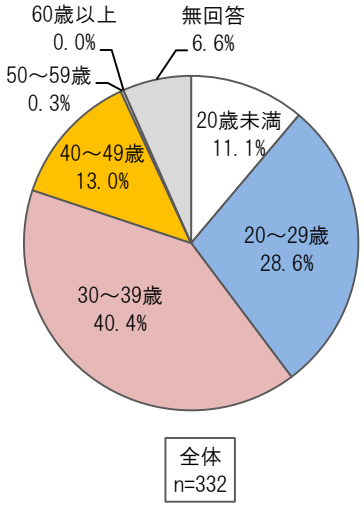
※Ｐ111 問2.3、Ｐ112 問2.2、Ｐ114 問6参照

問１で「1. 父親」「2. 母親」「3. 祖父」「4. 祖母」と回答した方

問4　現在の婚姻状況

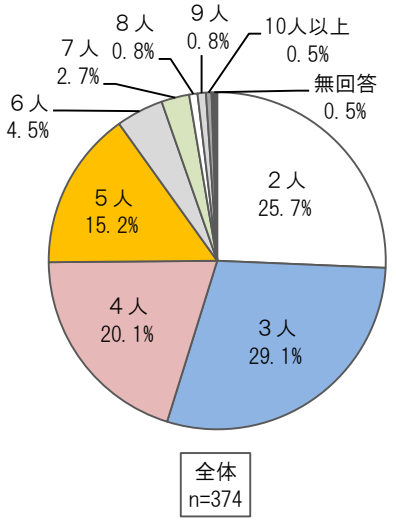


※ひとり親家庭になった年齢

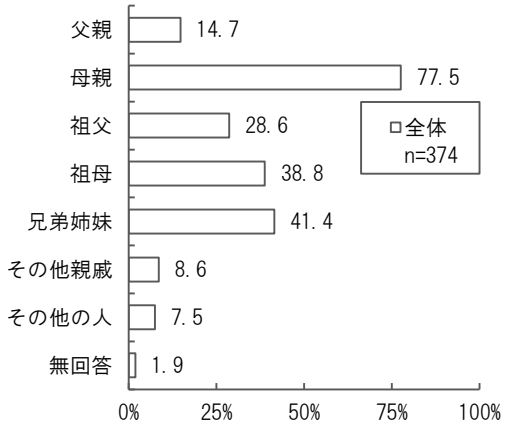


○同居している家族の人数をみると、「３人」（29.1％）が最も高く、次いで「２人」（25.7％）、「４人」（20.1％）となっています。
○同居している家族の内訳は、「母親」（77.5％）が最も高く、次いで「兄弟姉妹」（41.4％）、「祖母」（38.8％）となっています。

問5　同居している家族の人数

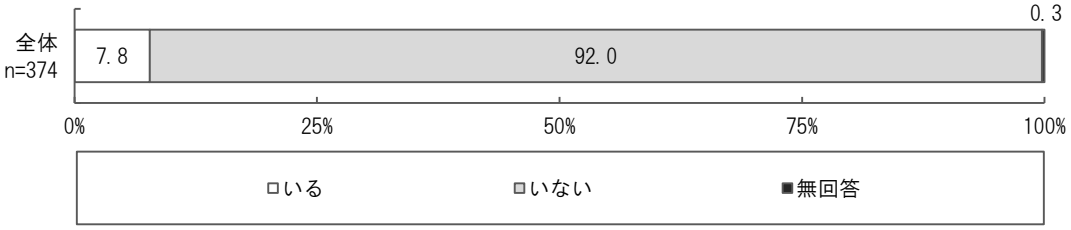


問6　同居している家族

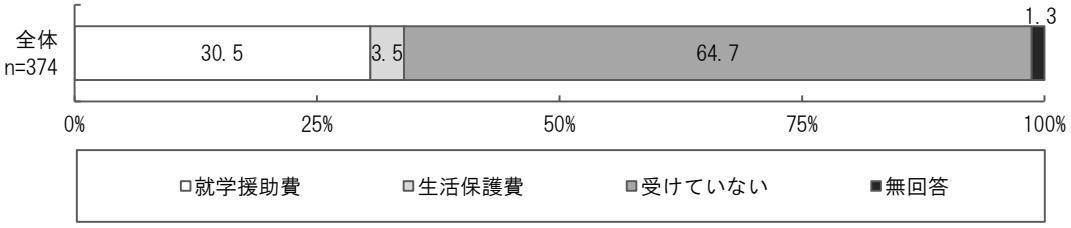


○介護が必要な方の有無をみると、「いる」が7.8%、「いない」が92.0%となっています。
○世帯が受けている公的支援は、「就学援助費」が30.5%、「生活保護費」が3.5%となっています。

問8　介護が必要な方の有無



問9　世帯が受けている公的支援



2　お子さんのことについて

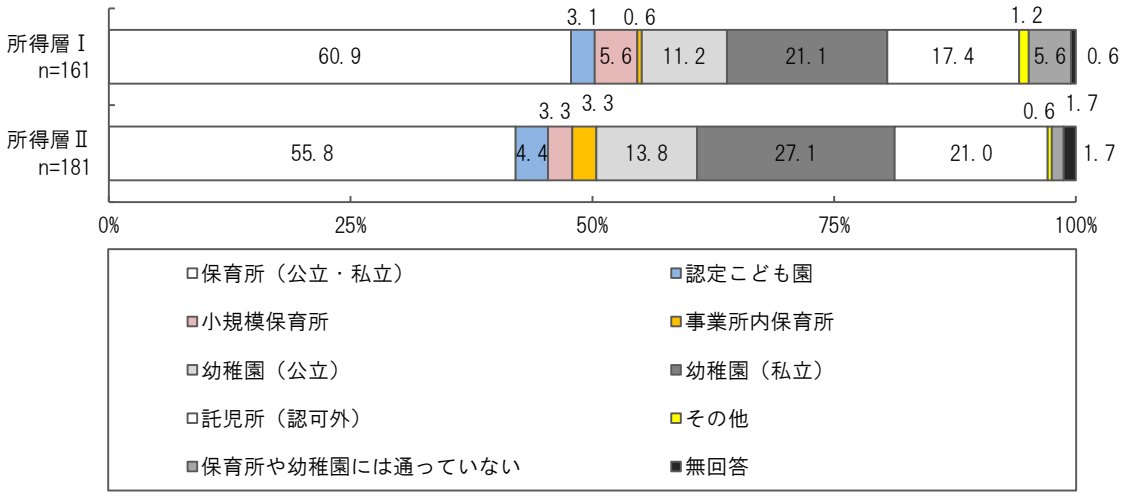
○所得層別にみると、いずれも「保育所（公立・私立）」「幼稚園（私立）」「託児所（認可外）」の順となっていますが、所得層Ⅰでは所得層Ⅱに比べ、「保育所（公立・私立）」の割合が高く、「幼稚園（私立）」「託児所（認可外）」の割合が低くなっています。

○希望する進学先を所得層別にみると、「高校」「短大・高専・専門学校」では所得層Ⅰの割合が高く、「大学またはそれ以上」では所得層Ⅱの割合が所得層Ⅰの２倍以上とその差は大きく開いています。

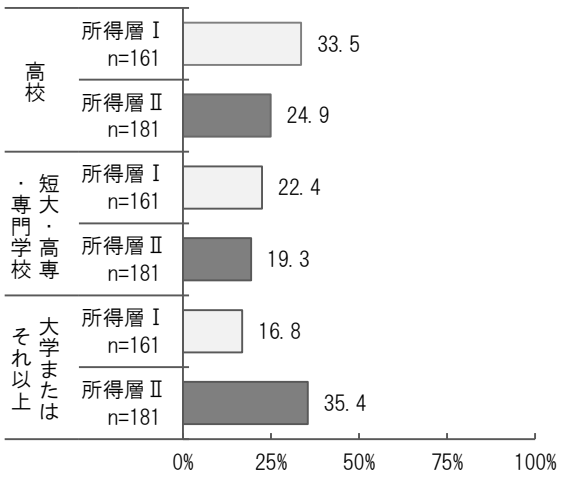
◎所得層Ⅰの世帯では、働く必要があるため保育所を選ぶ傾向が見られます。また、所得層Ⅱより所得層Ⅰでは、保育園や幼稚園に通っていない世帯が多く、経済的理由から保育園や幼稚園に通うのをあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

◎また、所得層Ⅰの世帯では、所得層Ⅱの世帯に比べて、経済的理由から進学をあきらめている世帯も一定数いると推察されます。

問10　現在通っている、または就学前に通ったことのある保育所や幼稚園（所得層別）



問11　希望する進学先（所得層別）



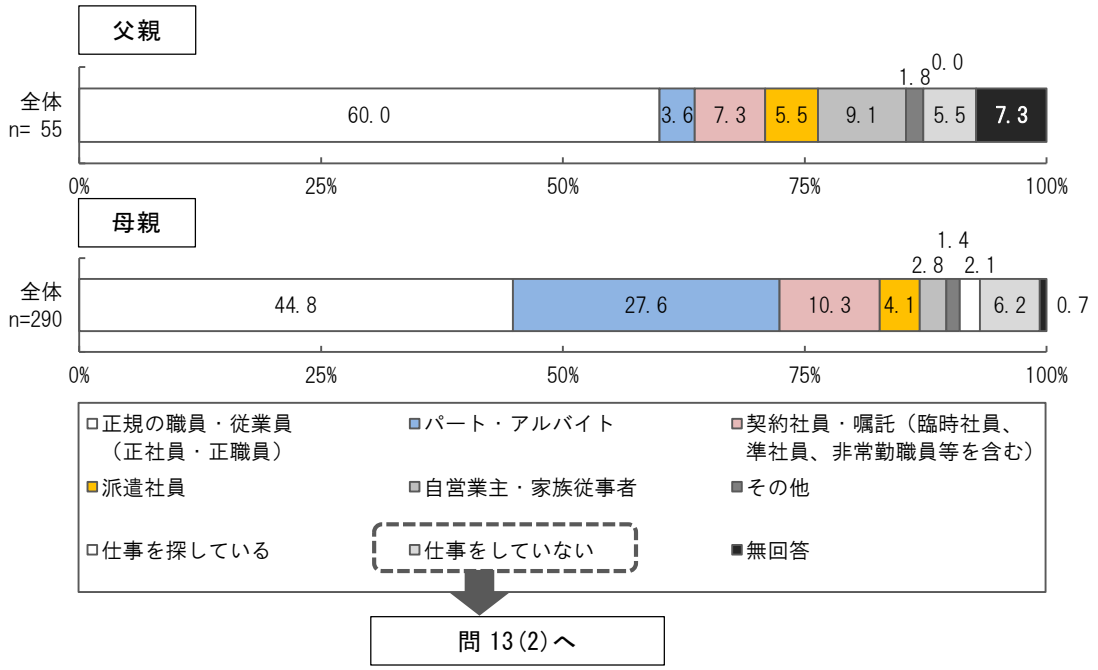
3　保護者の現在の就業状況について

○父親の現在の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（60.0%）が最も高く、次いで「自営業主・家族従事者」（9.1%）、「契約社員・嘱託（臨時社員、準社員、非常勤職員等を含む）」（7.3%）となっています。また、「仕事をしていない」が5.5%となっています。

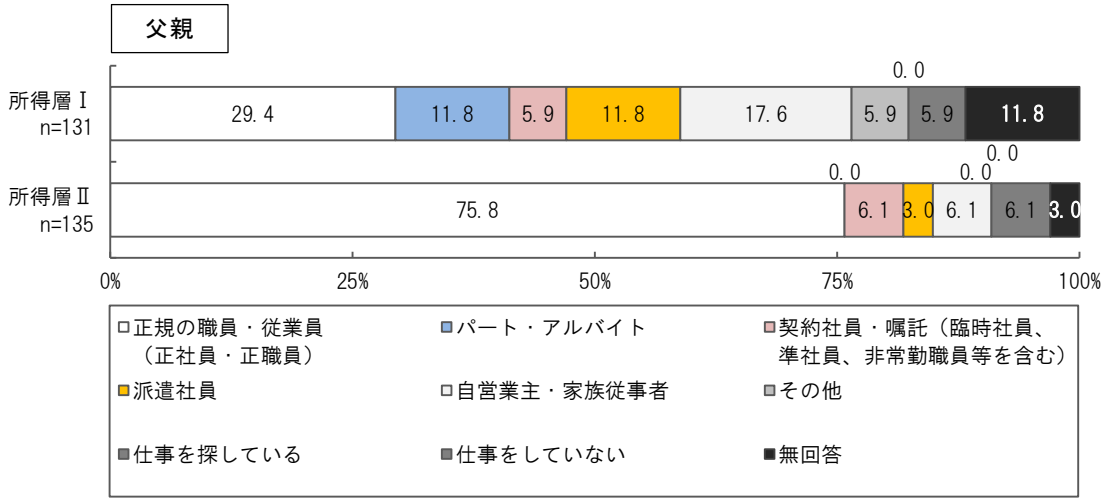
○母親の現在の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（44.8%）が最も高く、次いで「パート・アルバイト」（27.6%）、「契約社員・嘱託（臨時社員、準社員、非常勤職員等を含む）」（10.3%）となっています。また、「仕事をしていない」が6.2%となっています。

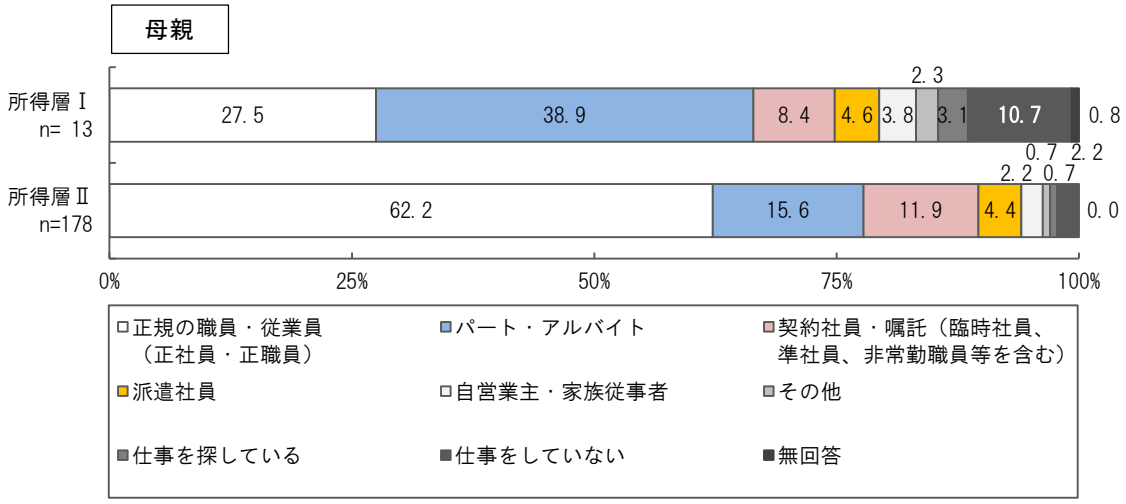
◎所得層別にみると、父親・母親ともに所得層Ⅰは所得層Ⅱよりも「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」の割合が低くなっています。

問13(1)　現在の就業状況



問13(1)　現在の就業状況（所得層別）

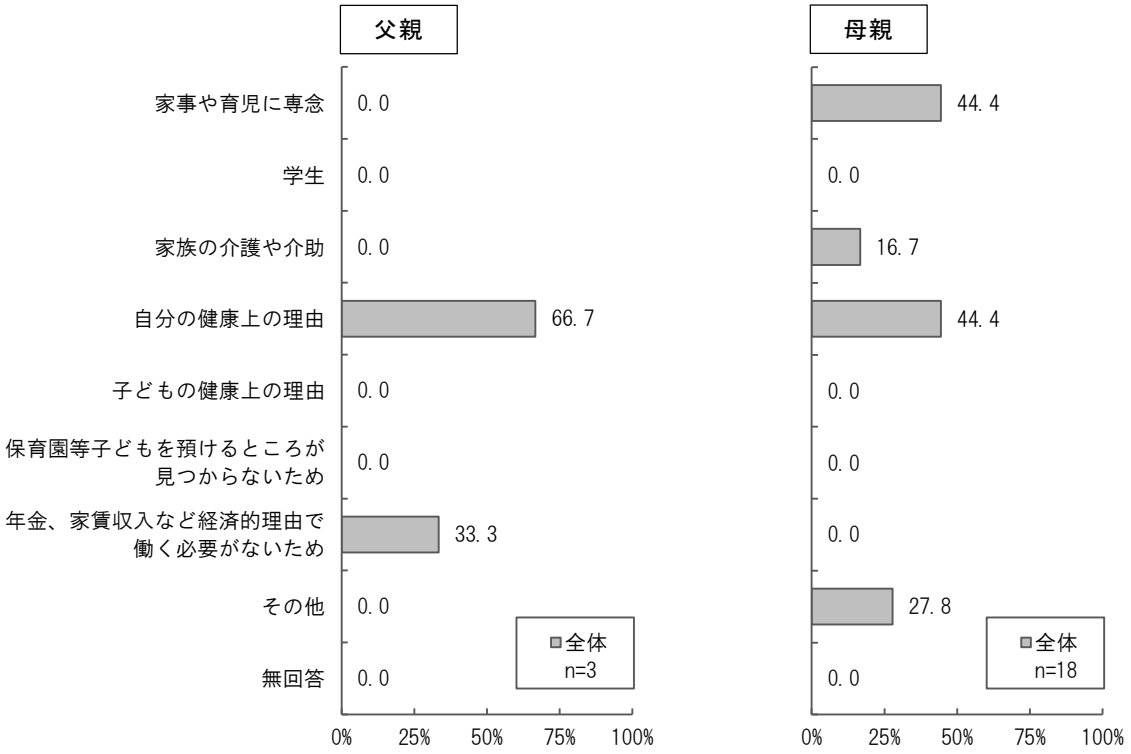




○母親が仕事をしていない理由は、「家事や育児に専念」「自分の健康上の理由」（各44.4%）で高くなっています。
（父親の対象者は少数のため、コメントを省略します。）

問 13(1)で「8. 仕事をしていない」と回答した方

問13(2)　現在仕事をしていない理由

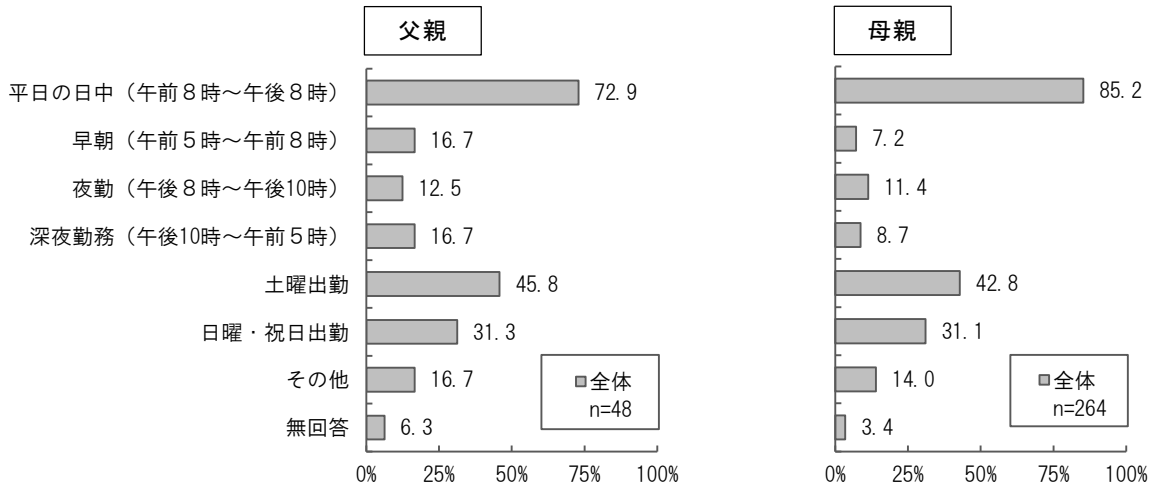


○勤務時間帯をみると、父親・母親ともに「平日の日中（午前８時～午後８時）」（72.9%・85.2%）が最も高く、次いで「土曜出勤」（45.8%・42.8%）となっています。

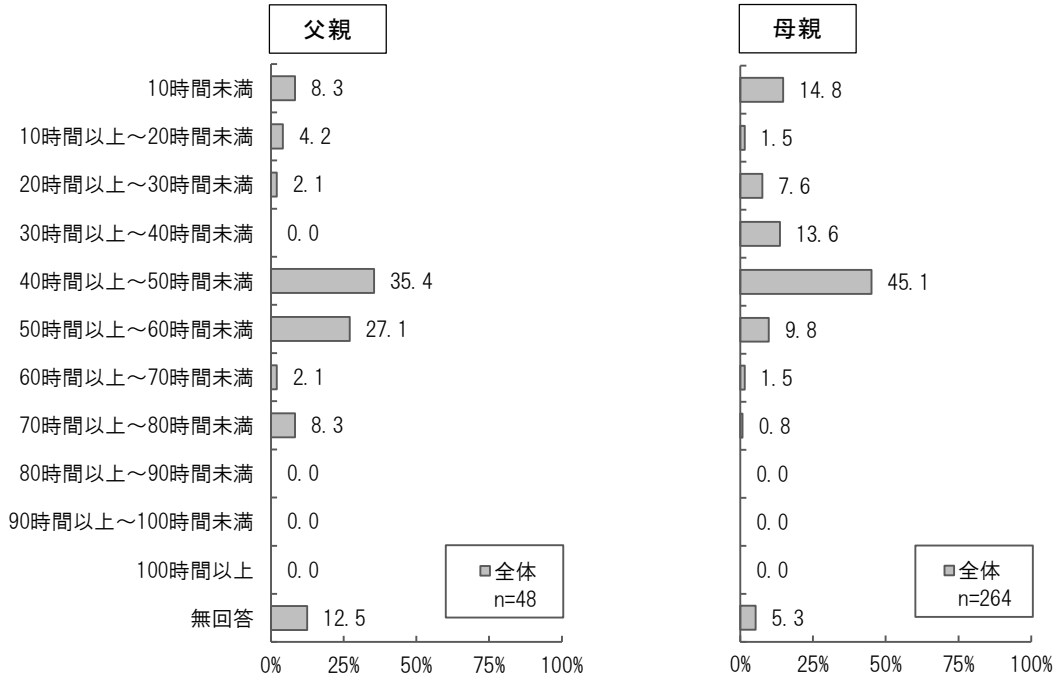
○週当たりの労働時間をみると、父親は「40時間以上～50時間未満」（35.4%）が最も高く、次いで「50時間以上～60時間未満」（27.1%）、母親は「40時間以上～50時間未満」（45.1%）が最も高く、次いで「10時間未満」（14.8%）となっています。

※全体の結果はＰ31 参照

問13(3)　仕事の勤務時間帯

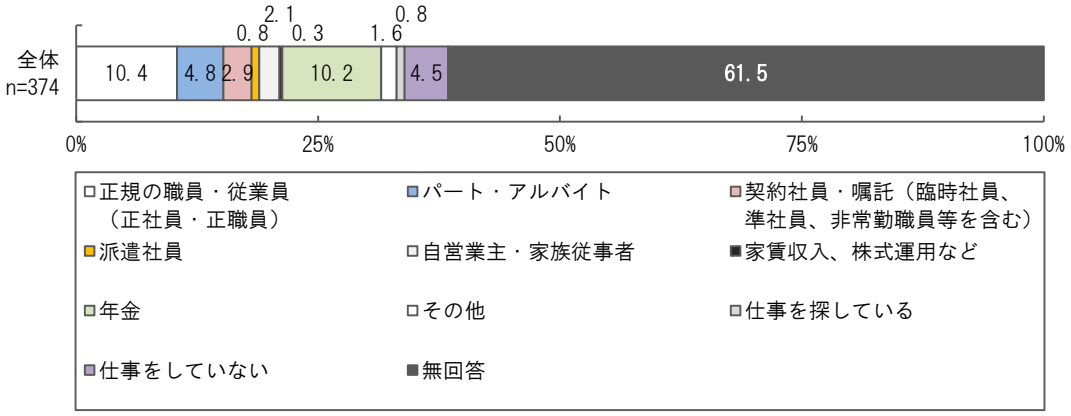


問13(4)　週当たりの平均労働時間



○父親・母親以外の方の就業状況をみると、「正規の職員・従業員（正社員・正職員）」（10.4%）、「年金」（10.2%）が１割を超え、それ以外は0.5割以下となっています。

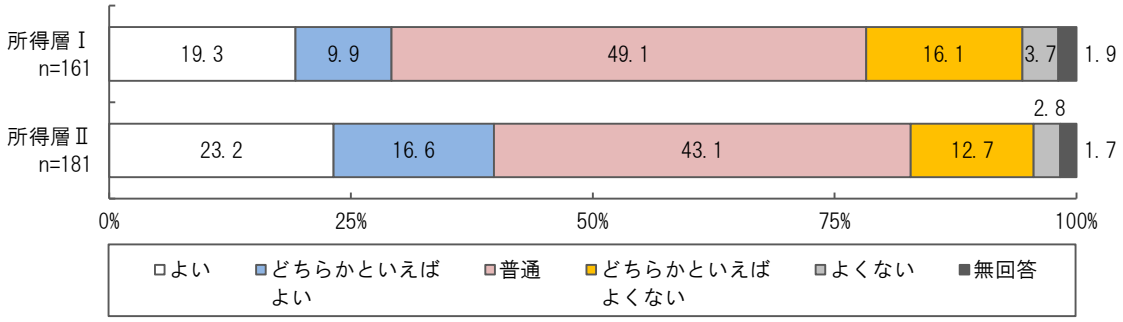
問14　主たる家計を支えている方が父親・母親以外の場合の就業状況



4　保護者（回答者）の健康状態について

○所得層別にみると、所得層Ⅰ・Ⅱともに「普通」（49.1%・43.1%）が最も高くなっています。また、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせると、所得層Ⅰ（29.2%）より所得層Ⅱ（39.8%）が高く、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせると、所得層Ⅱ（15.5%）より所得層Ⅰ（19.8%）が高くなっています。

問15　保護者の健康状態（所得層別）



5　子どもの健康状態等について

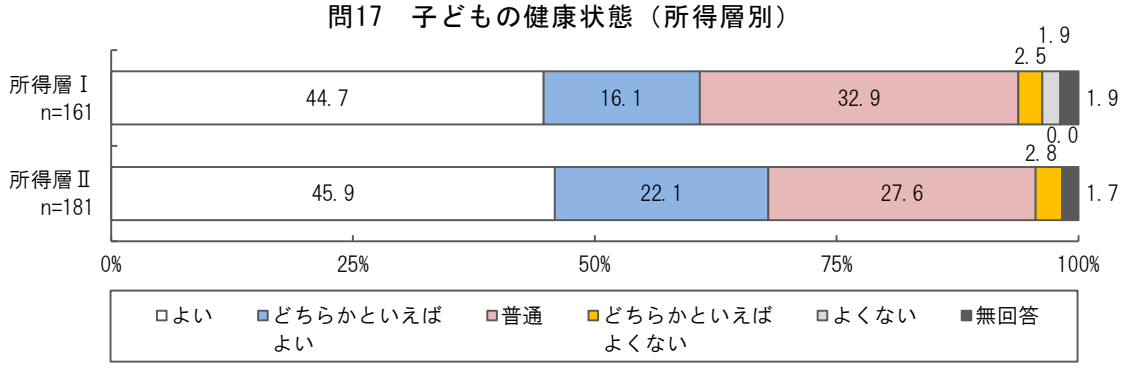
○子どもの健康状態を所得層別にみると、「よい」と「どちらかといえばよい」を合わせた割合は、所得層Ⅰ（60.8%）より所得層Ⅱ（68.0%）が高く、「どちらかといえばよくない」と「よくない」を合わせると、所得層Ⅱ（2.8%）より所得層Ⅰ（4.4%）が高くなっています。

○子どもに医療機関の受診をさせなかったことが「あった」と回答した割合は、２割を超えています。

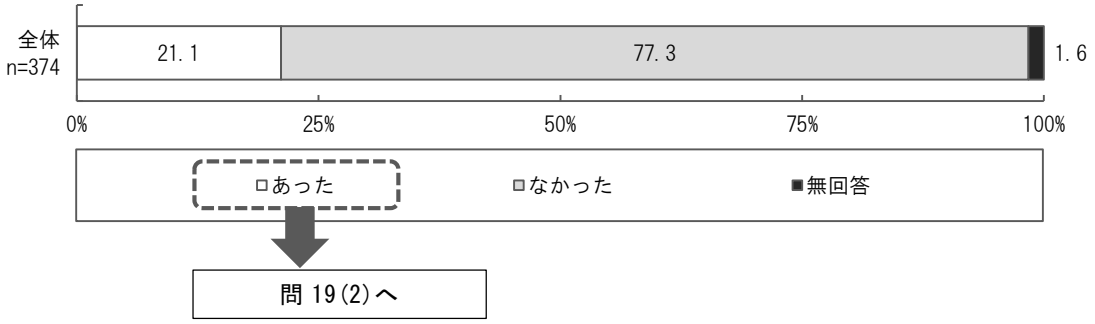
◎<u>所得層Ⅰが所得層Ⅱより健康状態のよくない傾向が見られます。</u>

※第２章Ｐ33 問 15、第４章Ｐ119 問 15 参照

問17　子どもの健康状態（所得層別）



問19(1)　子どもに医療機関を受診させなかった経験の有無

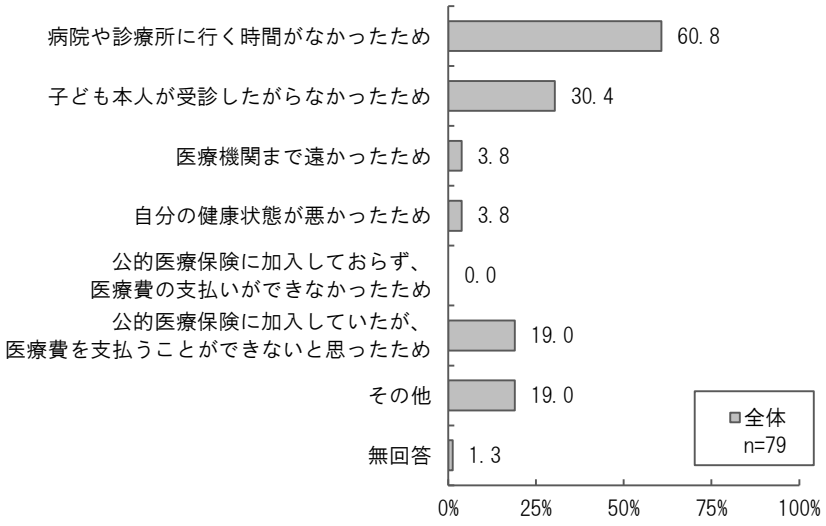


○医療機関を受診させなかった理由は、「病院や診療所に行く時間がなかったため」（60.8%）が最も高く、次いで「子ども本人が受診したがらなかったため」（30.4%）となっています。

◎ひとり親・準要保護世帯は、医療費を払うことができないことを理由に受診させなかった割合（19.0%）が調査対象全体に比べて高くなっています。

※第２章Ｐ41 問 19（2）参照

問19(2)　医療機関を受診させなかった理由

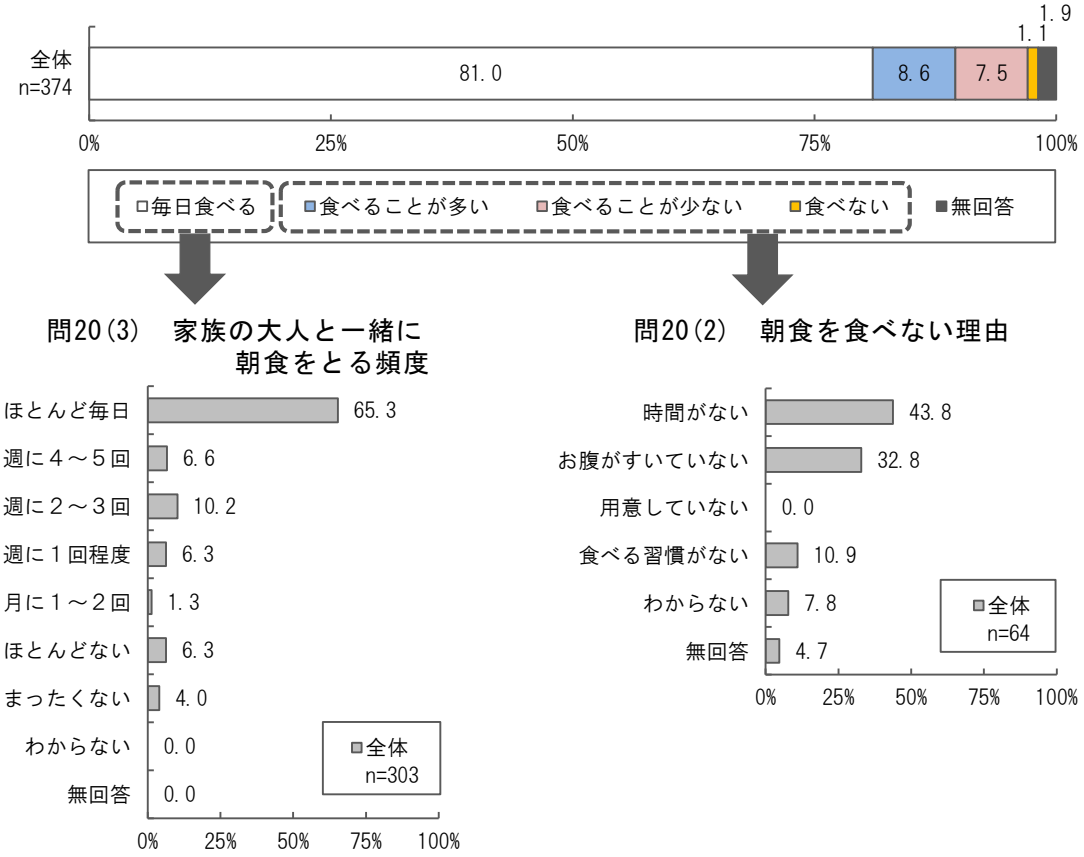


○朝食を「毎日食べる」子どもが家族の大人と一緒に朝食をとる頻度をみると、「ほとんど毎日」以外が34.7%となっています。

○朝食を抜いたり食べない理由をみると、「時間がない」（43.8%）が最も高く、次いで「お腹がすいていない」（32.8%）となっています。

◎ひとり親・保護世帯は時間に余裕がなく、子どもを病院に連れて行くことが難しかったり、朝食を食べる習慣がない割合が高かったりする傾向が見られます。

問20(1)　過去１か月の朝食の摂取状況



○入浴回数をみると、「ほとんど毎日」（91.2%）が９割を超え高くなっています。一方、「週に１日程度」（0.3%）、「ほとんど入らない」（0.3%）がごくわずかながらいる状況です。

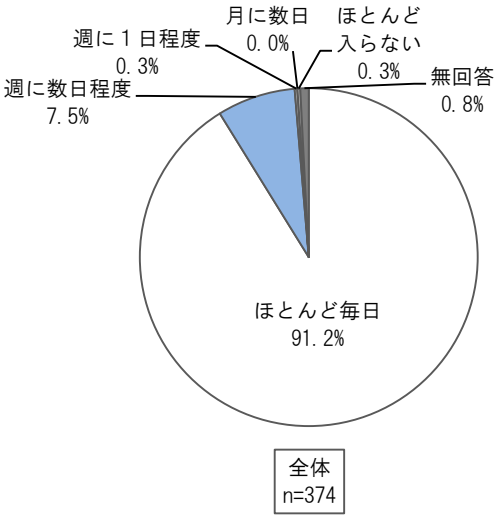
○歯磨き回数では、「１日に２回以上」（71.1%）が最も高く、次いで「１日に１回」（20.6%）となっています。一方、「ときどきする」（4.5%）、「ほとんどしない」（1.6%）を合わせると6.1%となっています。

○４月から現在までに保育所・幼稚園・学校を休んだ状況をみると、「休んだ」（59.9%）が６割となっています。

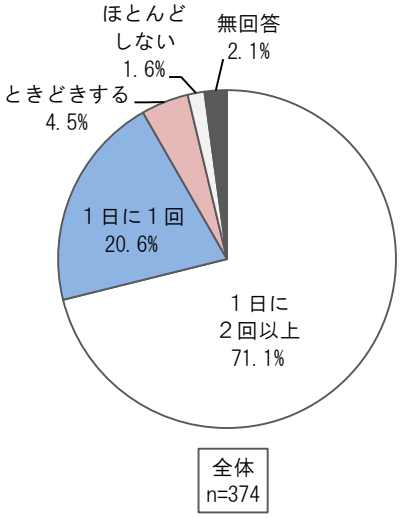
○保育所・幼稚園・学校を休んだ理由は、「病気やけが」（90.2%）が最も高く、次いで「忌引きなどの家族の理由」（13.8%）、「本人が行きたがらなかった」（9.8%）となっています。

問21　入浴・歯磨きの頻度

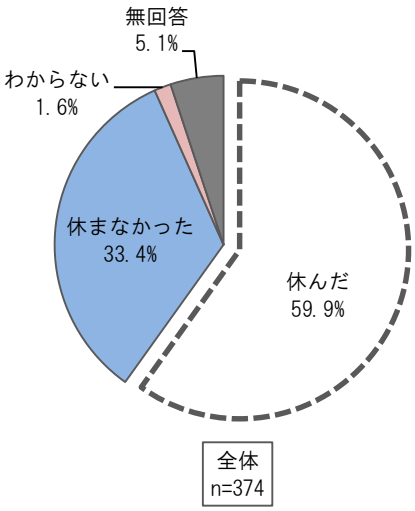
入浴回数（シャワーを含む）



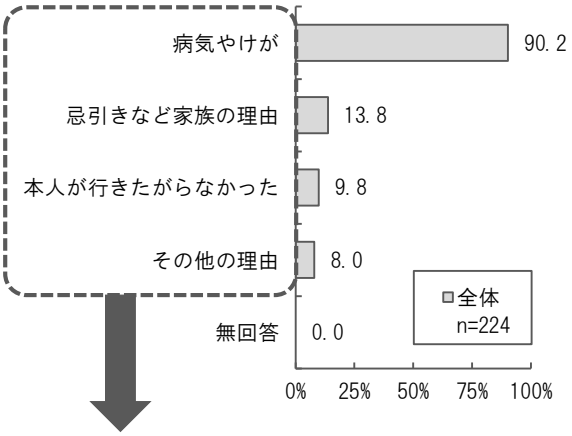
歯磨き回数



問22(1)　保育所・幼稚園・学校の



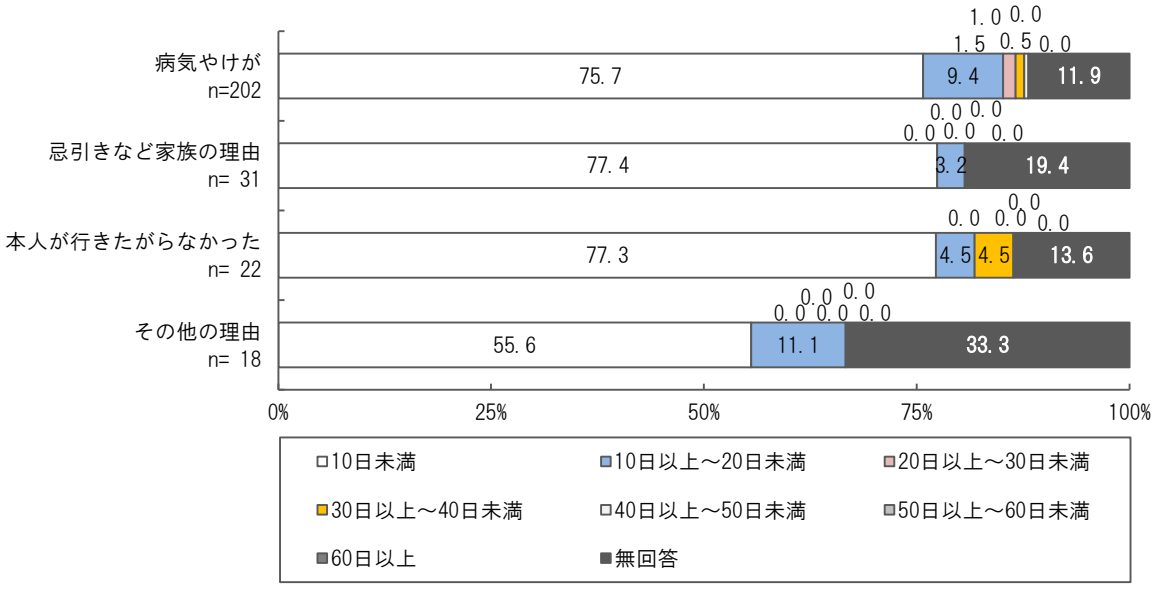
問22(2)　休んだ理由欠席の状況（４月～現在）



問22(2)　休んだ日数へ

○休んだ日数は、いずれも10日未満の割合が最も高くなっています。

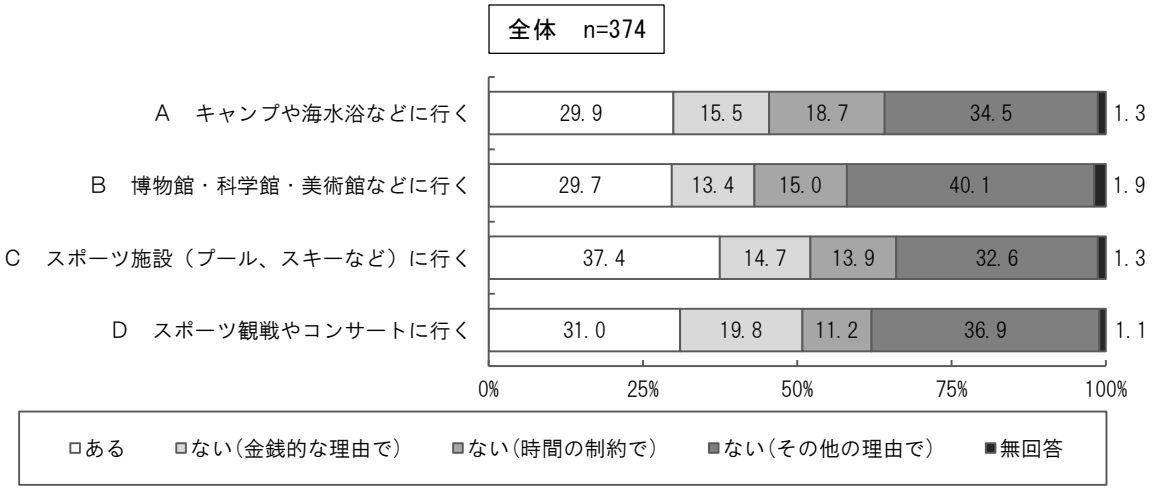
問22(2)　休んだ日数



6　子どもとの関わりについて

○子どもと体験することが「ある」割合は、『スポーツ施設（プール、スキーなど）に行く』（37.4%）が最も高くなっています。一方、「ない」を合わせると『キャンプや海水浴などに行く』（68.7%）が最も高く、次いで『博物館・科学館・美術館などに行く』（68.5%）となっています。

問23(2)　子どもと体験すること

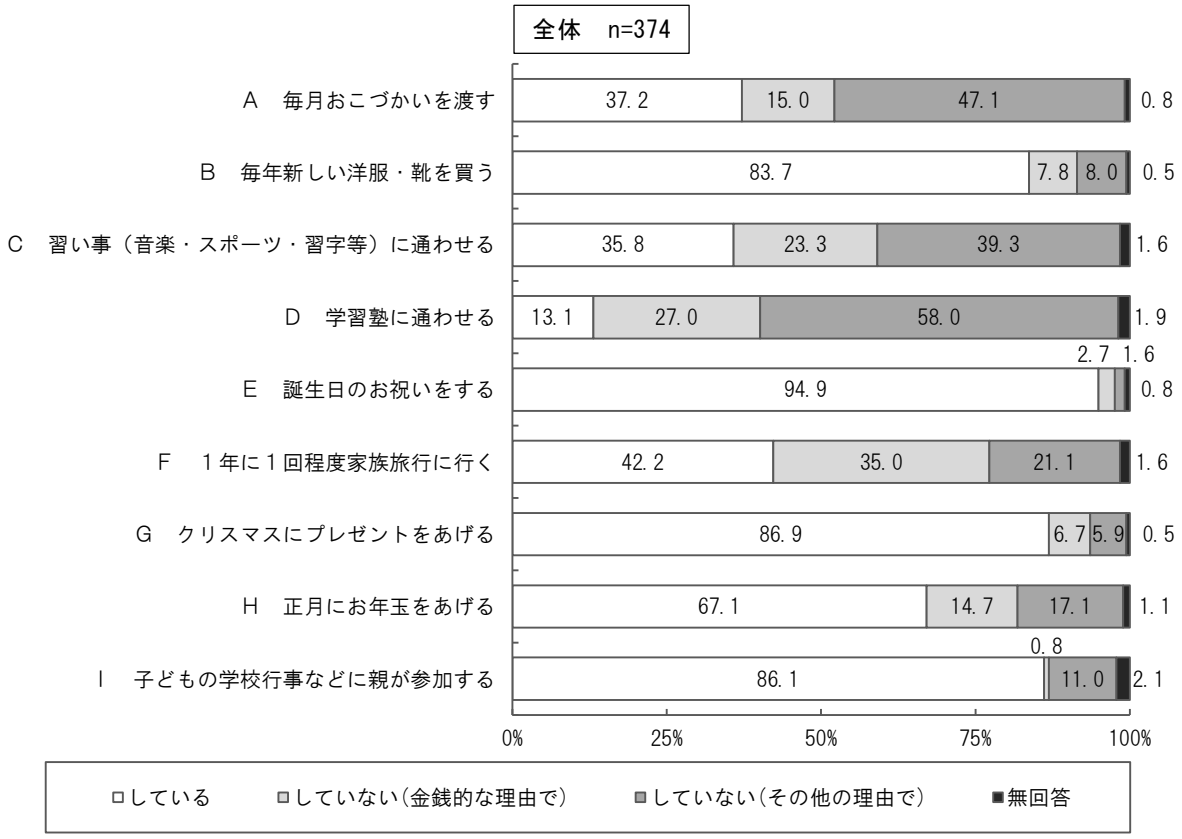


○家庭で子どもに「している」割合は、『誕生日のお祝いをする』（94.9%）が最も高くなっています。一方、「していない」を合わせると『学習塾に通わせる』（85.0%）が最も高く、次いで『習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる』（62.6%）、『毎月おこづかいを渡す』（62.1%）となっています。

◎ひとり親・保護世帯では、「子どもに毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事に通わせる」の割合が調査対象全体に比べて低く、子どもにあまりお金をかけていない（かけられない）傾向が見られます。

※第２章Ｐ53～55 問 24 参照

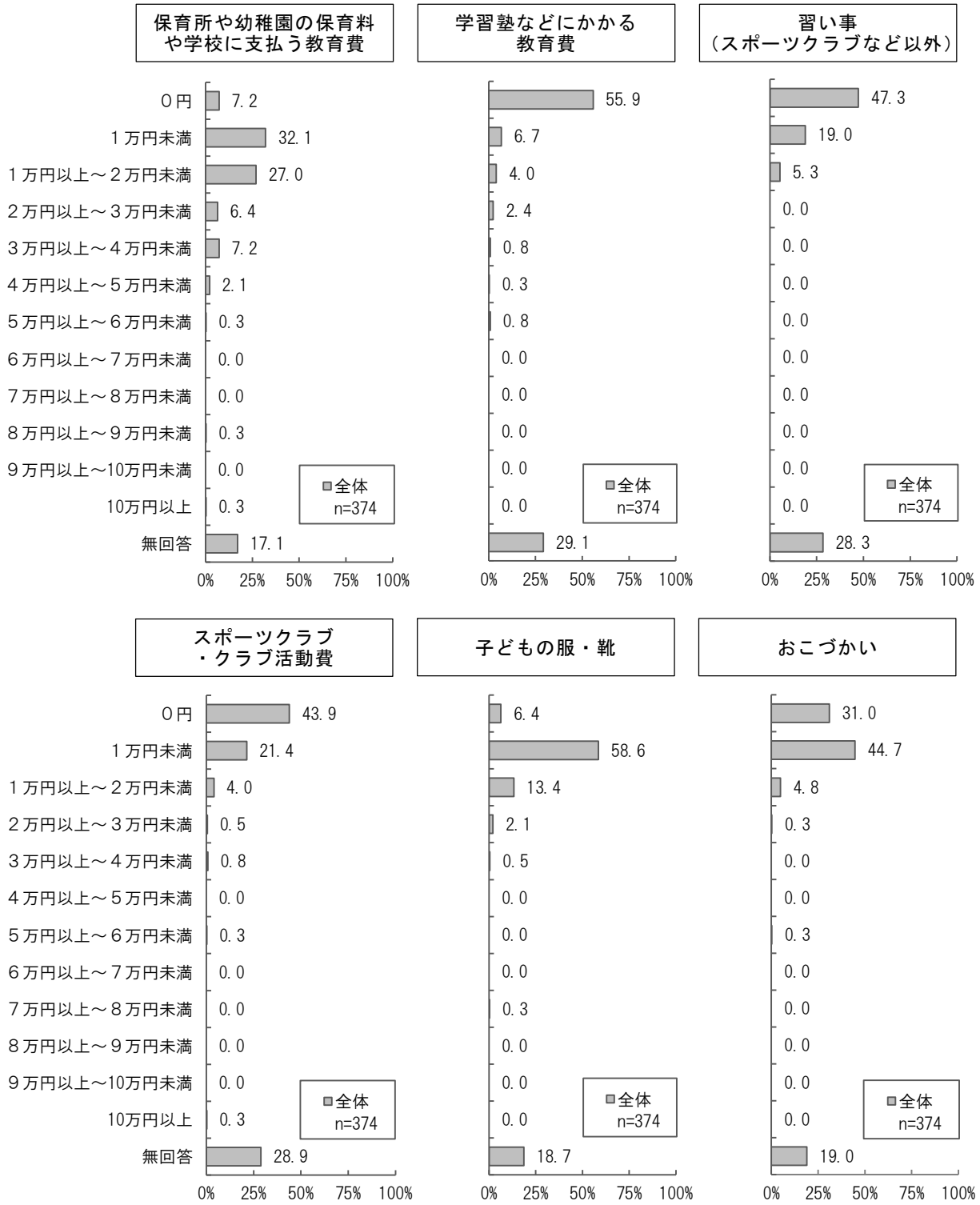
問24　家庭で子どもにしていること

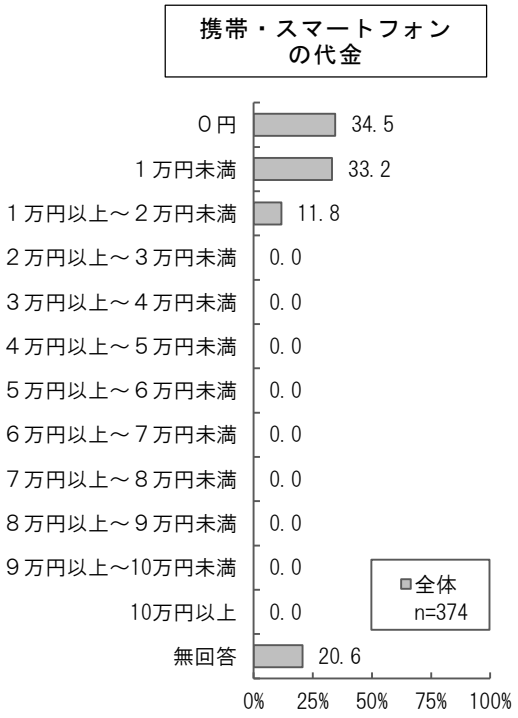


7　子育てにかかる費用について

○『学習塾などにかかる教育費』『習い事（スポーツクラブなど以外）』『スポーツクラブ・クラブ活動費』『携帯・スマートフォンの代金』では「０円」、『保育所や幼稚園の保育料や学校に支払う教育費』『子どもの服・靴』『おこづかい』では「１万円未満」の割合が最も高くなっています。

問25　子育てにかかる生活費や学費





8　家庭での生活について

○困った時や悩みがあるときに相談できる相手をみると、「自分の親」（67.9%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・その他親戚」（37.7%）、「近隣に住む知人・友人」（35.6%）となっています。

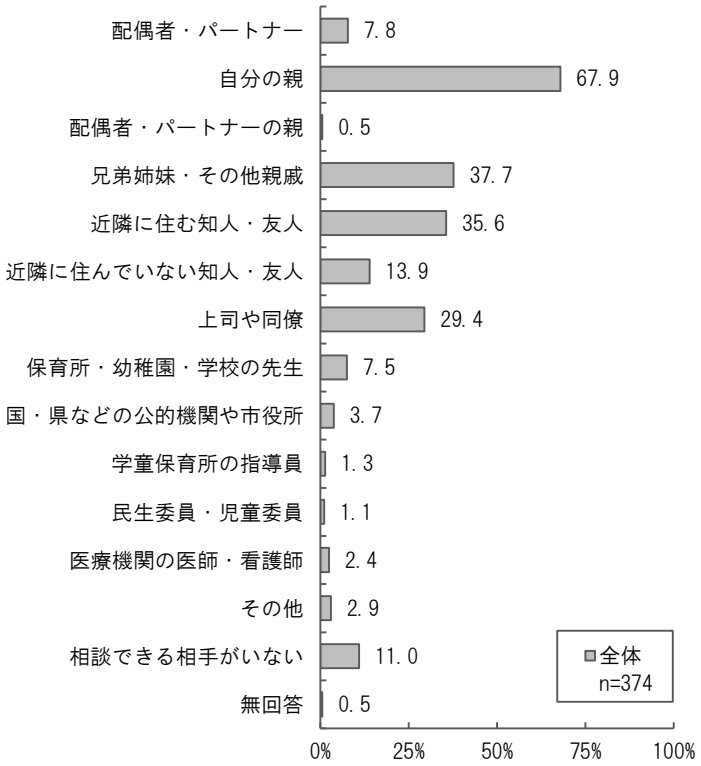
○保護者が病気や不在の時に、子どもの面倒を見てくれる人は、「同居している大人の家族・親族」（44.1%）が最も高く、次いで「ふだんは別居している家族・親族」（42.5%）となっています。

◎悩みの相談相手について、調査対象者全体では「配偶者・パートナー」が最も多くなっているのに対し、ひとり親・保護世帯では「自分の親」が最も多くなっています。

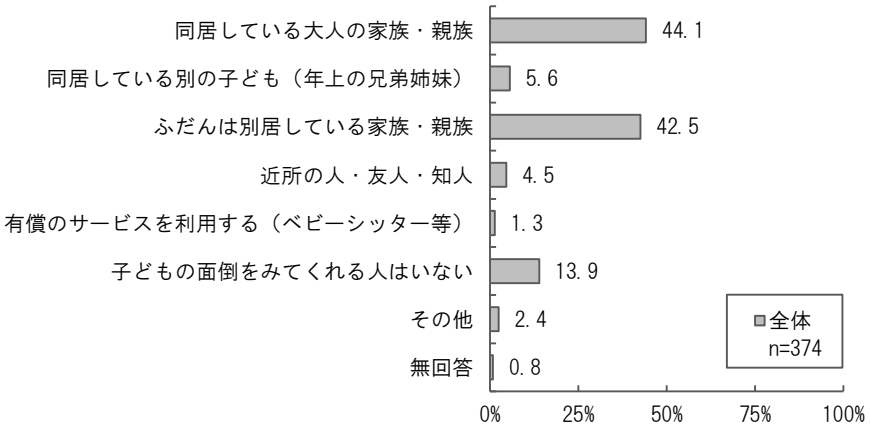
◎また、ひとり親・保護世帯では「相談できる相手がいない」、病気の時や不在の時に「子どもの面倒をみてくれる人がいない」がそれぞれ10%以上となっており、調査対象者全体と比べて割合が高く、子育て等で孤立しがちな傾向が見られます。

※第２章Ｐ59 問 26、P62 問 27 参照

問26　本当に困ったときや悩みがあるときに相談できる人



問27　病気の時や不在の時に、子どもの面倒をみてくれる人



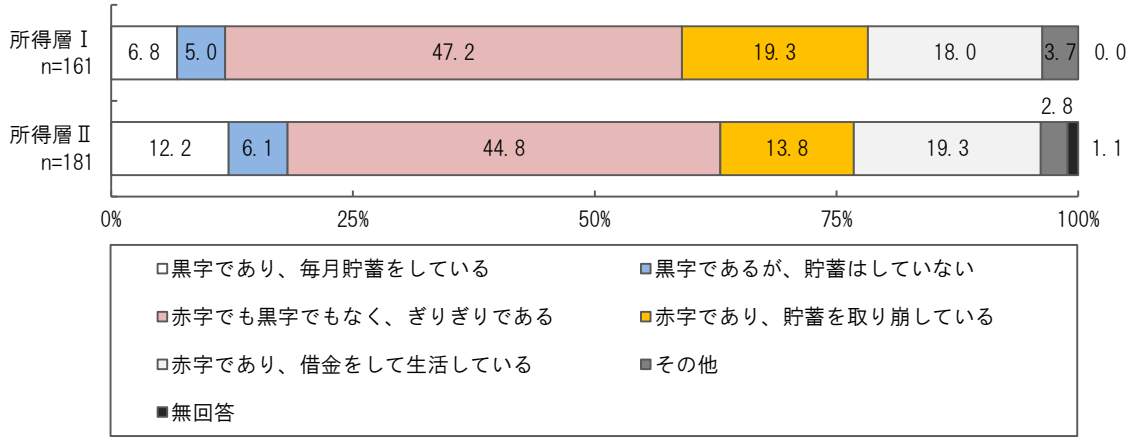
9　世帯の経済状況について

○家計の状況を所得層別でみると、所得層Ⅰ・Ⅱともに「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」（47.2%・44.8%）が最も高くなっています。所得層Ⅱでは「赤字であり、借金をして生活している」（19.3%）が約２割となっている反面、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」（12.2%）が１割を超えており、同じ所得層内でも格差が大きくなっています。

◎ひとり親・保護世帯の所得層Ⅱでは、「黒字で毎月貯蓄している」の割合が調査対象者全体の所得層Ⅱに比べて半分以下となっており、比較的収入があっても経済的余裕が少ないことがうかがえます。

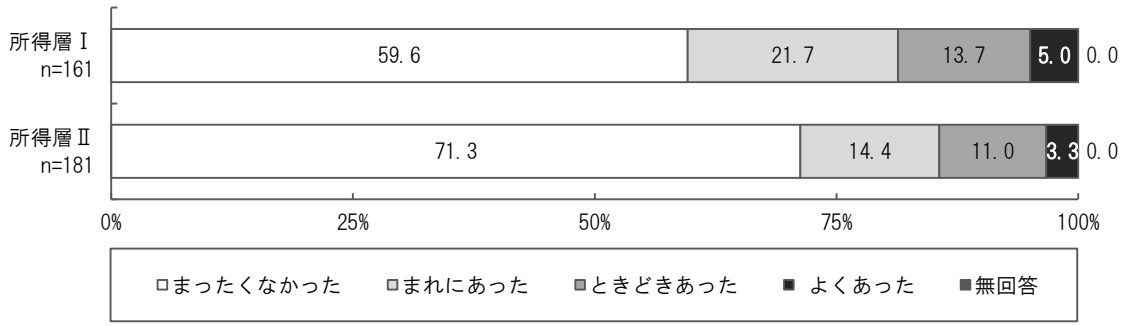
※第２章Ｐ64 問 29 参照

問29　家計の状況（所得層別）



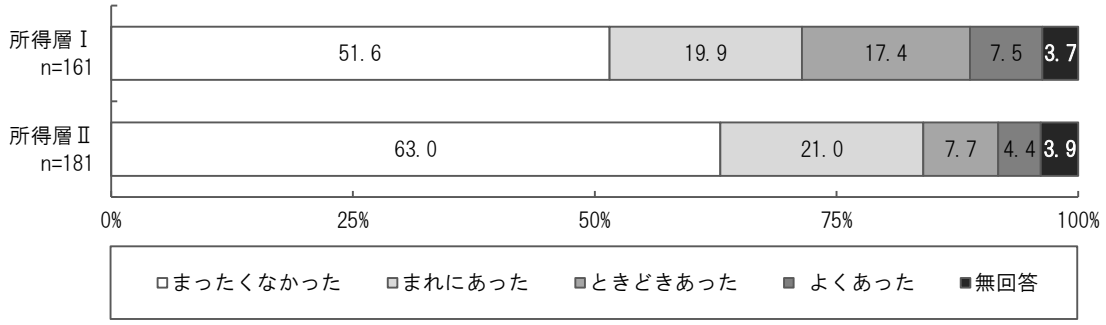
○過去１年間に食料が買えなかった状況を所得層別にみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は所得層Ⅰ（40.4%）が所得層Ⅱ（28.7%）を上回っています。

問30　過去１年間に食料が買えなかった経験（所得層別）



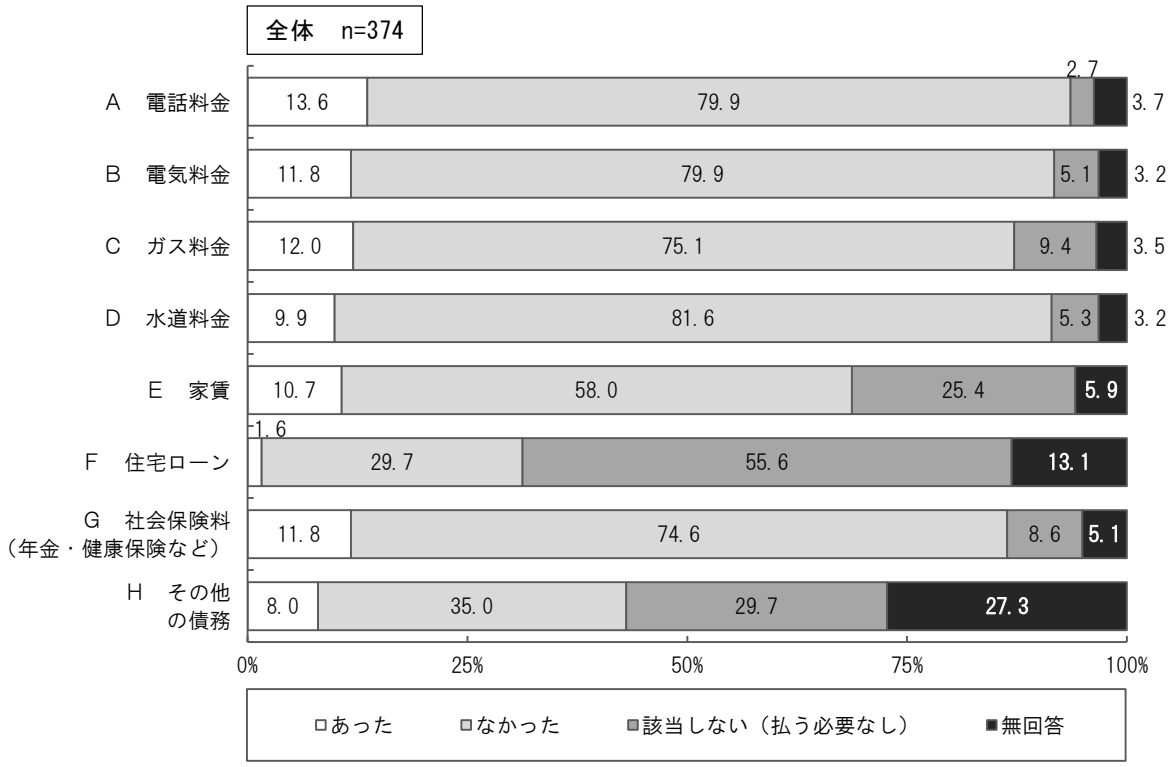
○過去１年間に衣類が買えなかった状況を所得層別にみると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた割合は所得層Ⅰでは44.8%となっています。

問31　過去１年間に衣類が買えなかった経験（所得層別）



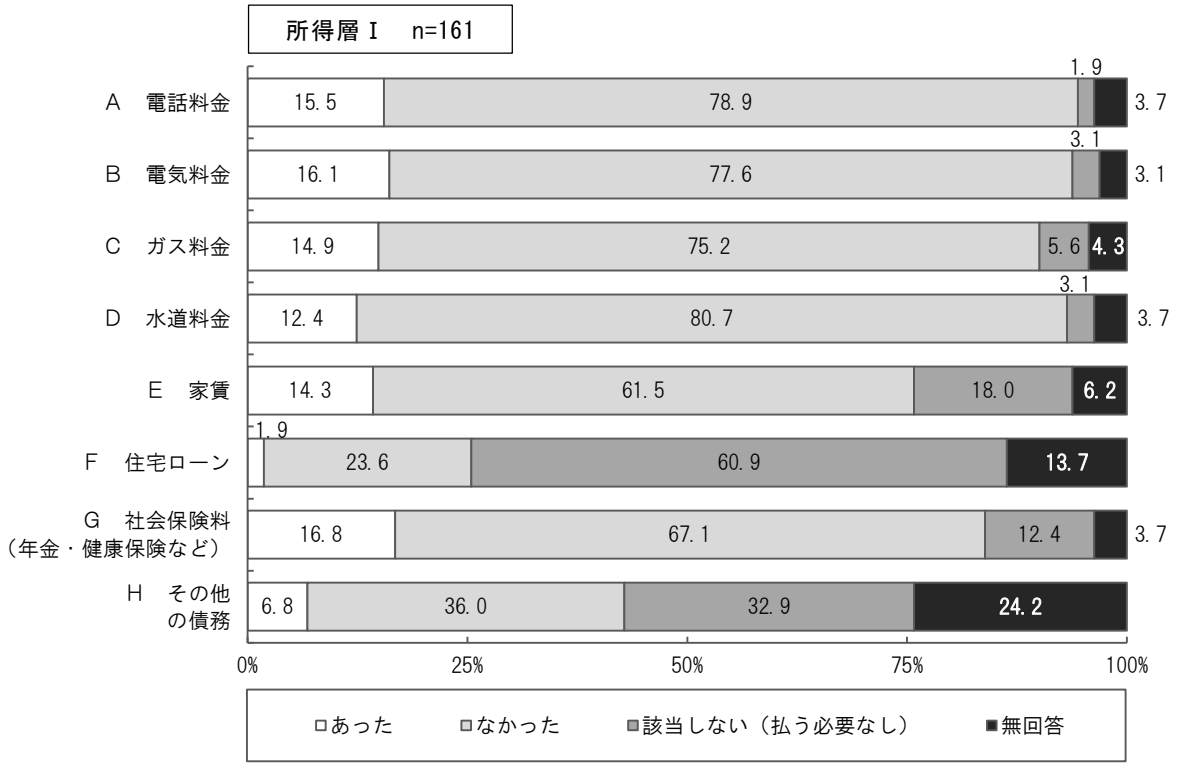
○過去1年間に未払い・滞納・債務不履行が「あった」割合は、多い順に「Ａ　電話料金」「Ｃ　ガス料金」「Ｂ　電気料金」「Ｇ　社会保険料（年金・健康保険など）」「Ｅ　家賃」で10%台となっています。

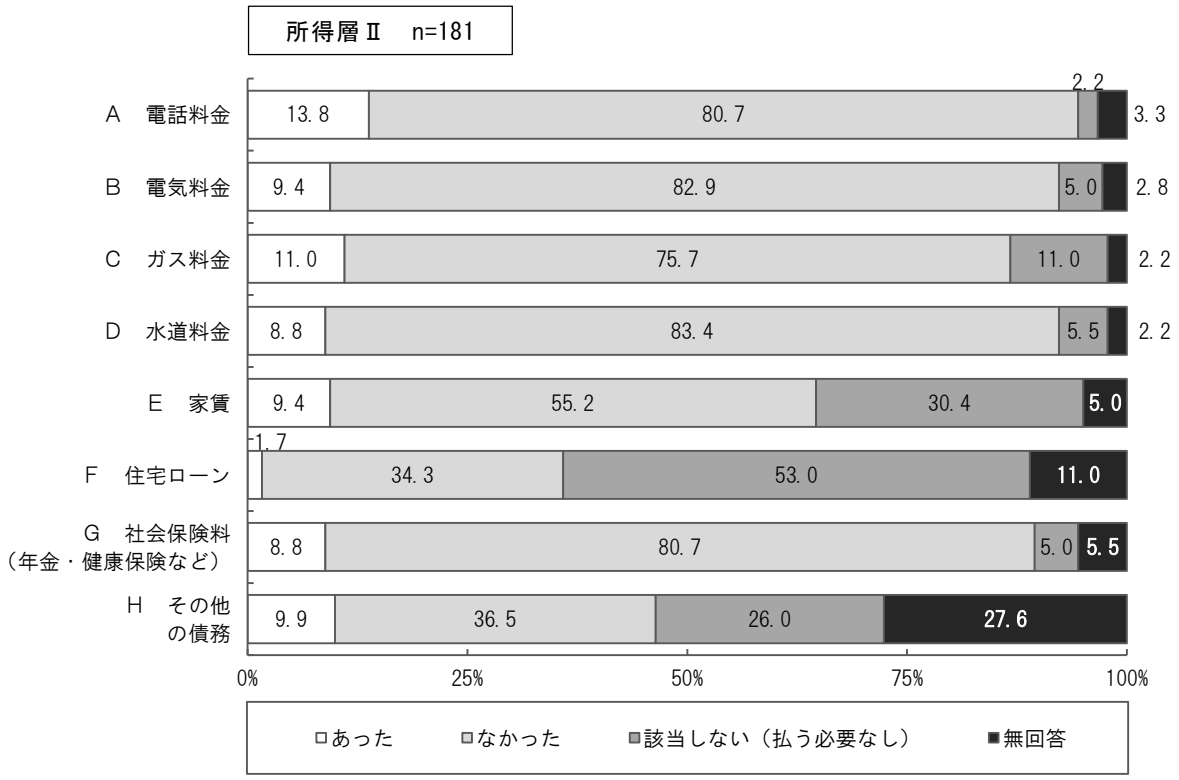
問32　過去１年間の未払い・滞納・債務不履行の経験



○所得層別にみると「あった」割合は、「Ｈ　その他の債務」を除いて所得層Ⅰが所得層Ⅱを上回っています。

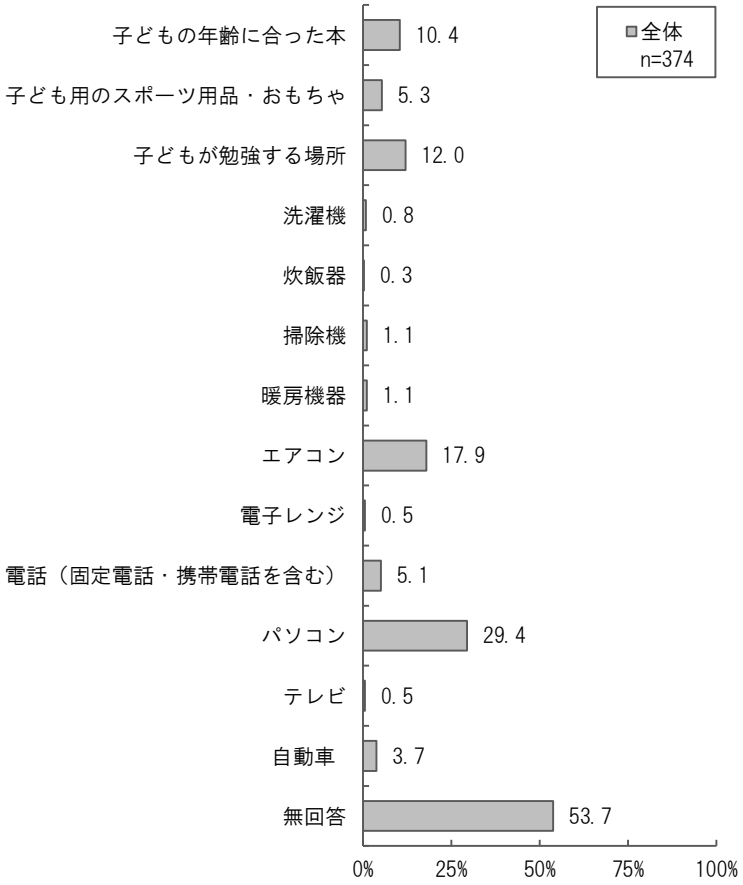
問32　過去１年間の未払い・滞納・債務不履行の経験（所得層別）





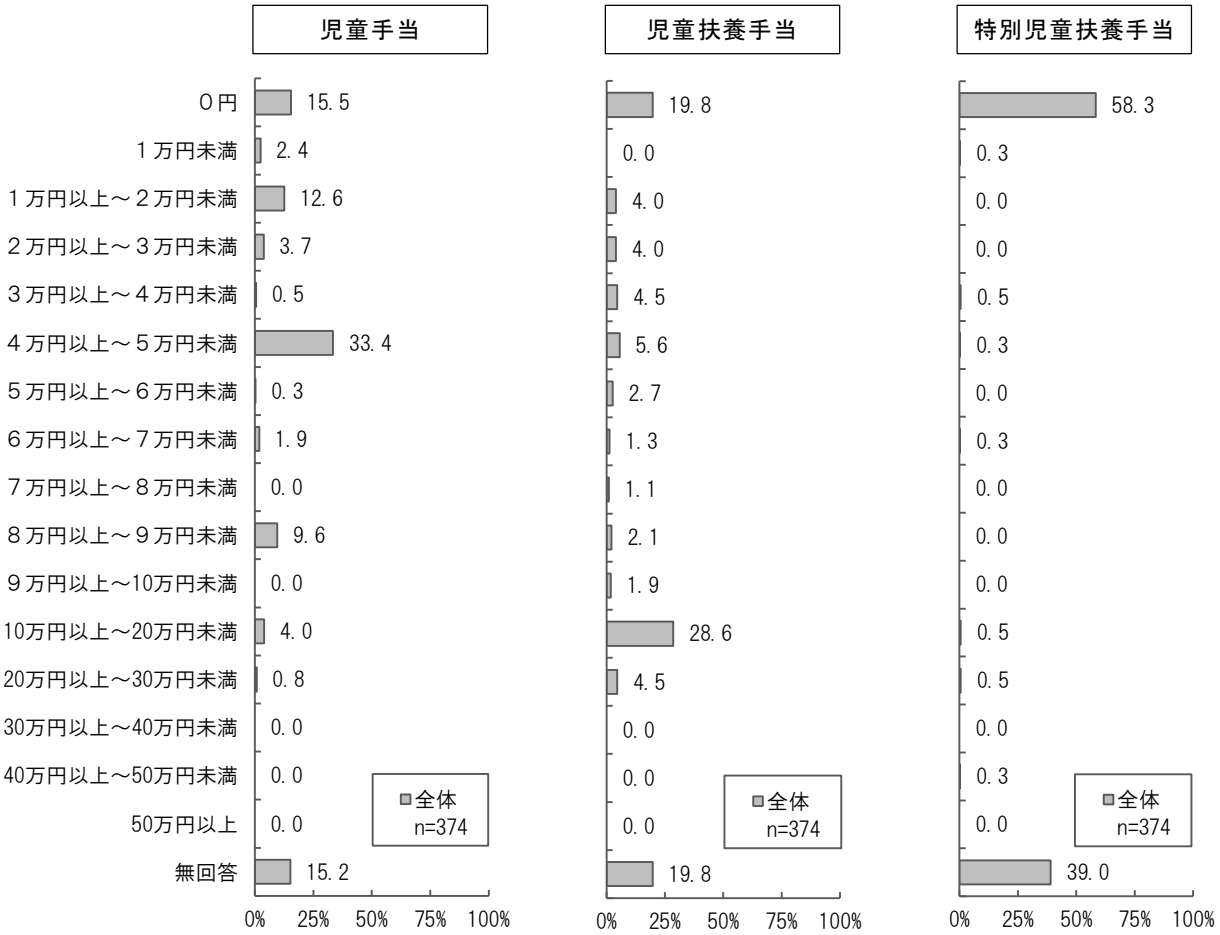
○経済的理由のために世帯にないものをみると「パソコン」（29.4%）が最も高く、次いで「エアコン」（17.9%）、「子どもが勉強する場所」（12.0%）となっています。

問33　経済的理由のために世帯にないもの



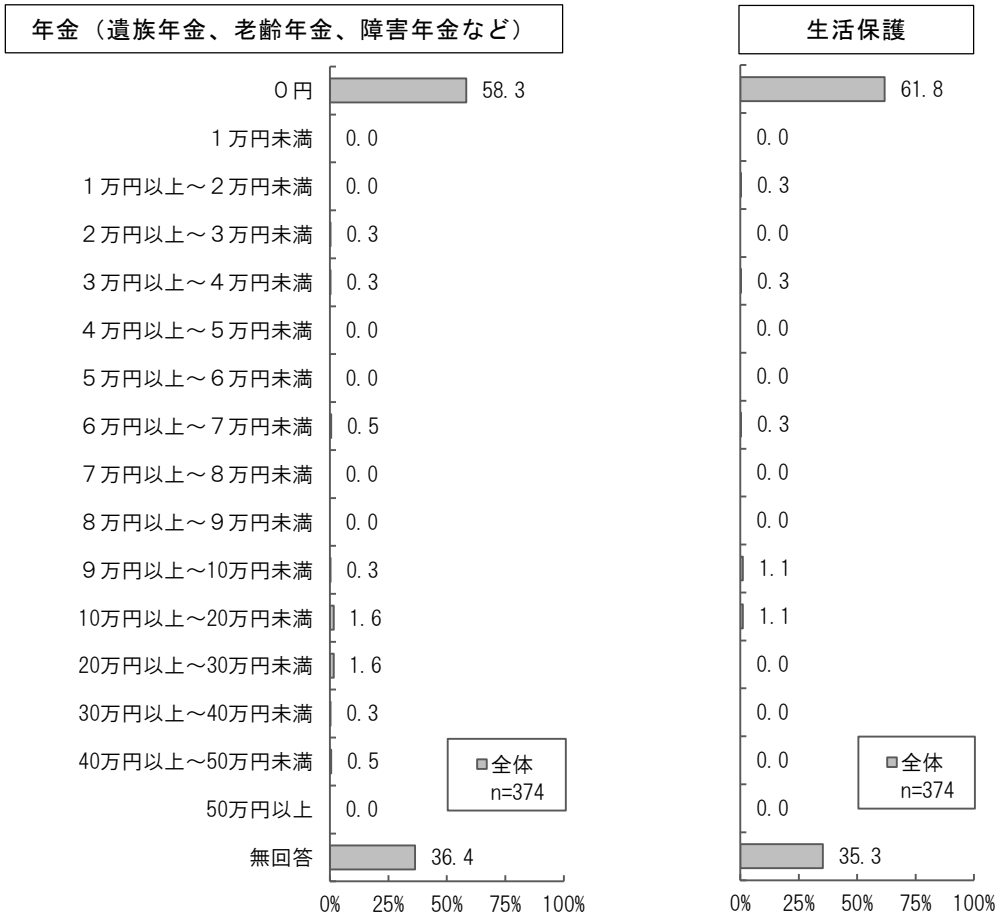
○児童手当の支給額は、「４万円以上～５万円未満」が３割を超え最も高くなっています。
○児童扶養手当の支給額は、「10万円以上～20万円未満」が約３割で最も高くなっています。
○特別児童扶養手当は、「０円」（58.3%）が半数以上を占めています。

問34　公的年金、社会保障給付金の１回あたり支給額

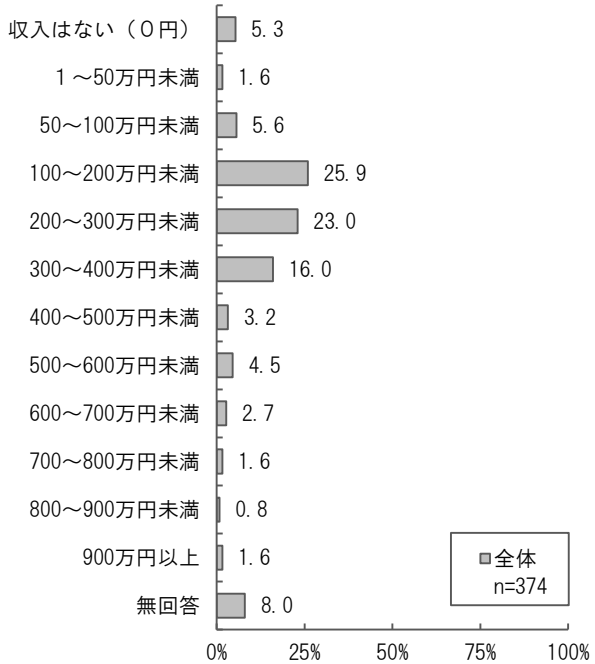


○年金（遺族年金、老齢年金、障害年金など）・生活保護の支給額は、「０円」（58.3%・61.8%）が最も高くなっています。

○世帯全員の年間収入額は、「100～200万円未満」（25.9%）が最も高く、次いで「200～300万円未満」（23.0%）、「300～400万円」（16.0%）となっています。



問35[問35]　世帯全員の年間収入額



10　これまでの経験について

○父親・母親の最終学歴は、ともに「高校卒」（45.5%・44.8%）が最も高く、次いで「専修・専門学校卒（高校卒業後）」（14.5%・26.6%）となっています。

○保護者の中学３年生の頃の家庭の様子をみると、母子世帯・父子世帯を合わせると15.3%となっています。

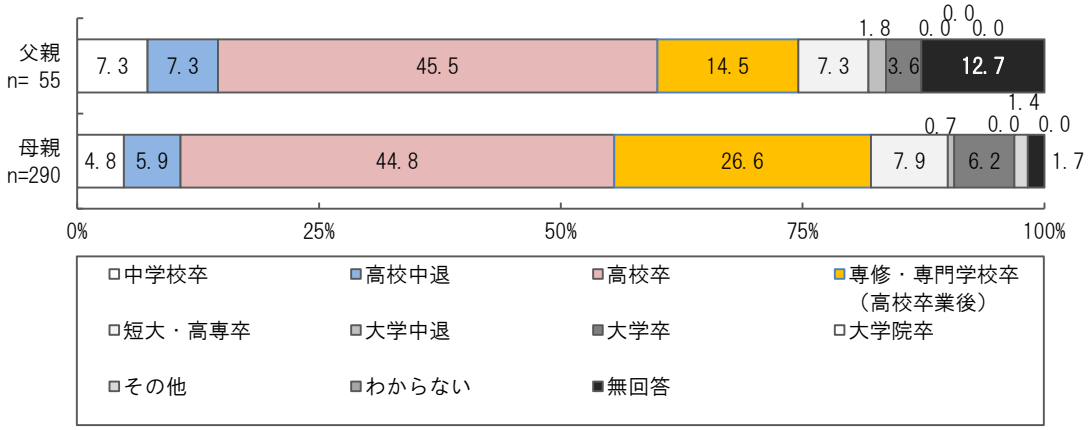
○中学３年生の頃の暮らし向きは、「「やや苦しかった」と「大変苦しかった」を合わせると32.8%となっています。約３分の１が苦しい暮らし向きだったことがうかがえます。

◎ひとり親・保護世帯では、親の最終学歴、中学３年での暮らし向き、中学３年での成績のいずれも調査対象者全体に比べて低い傾向があり、相関関係が見られます。

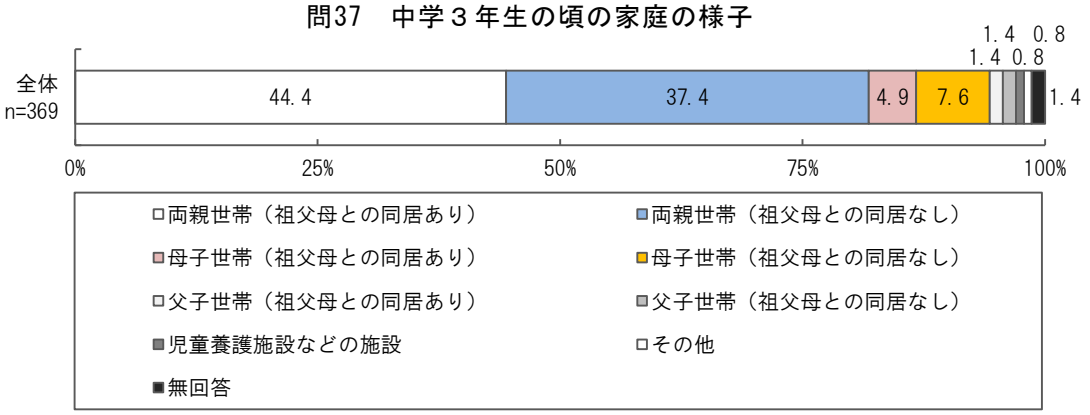
◎ひとり親・保護世帯では、中学３年のころの家庭の様子で、ひとり親世帯だった割合が、調査対象者全体に比べて高くなっており、ひとり親世帯出身者が親になってからひとり親世帯になるケースが一定程度見られます。

※第２章 P72～74 問 36～39 参照

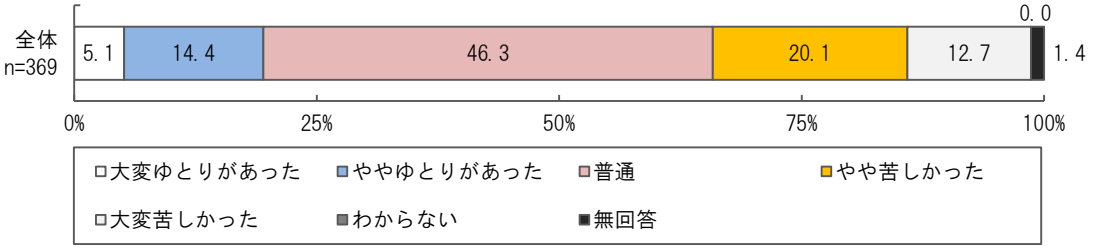
問36　保護者の最終学歴



問37　中学３年生の頃の家庭の様子

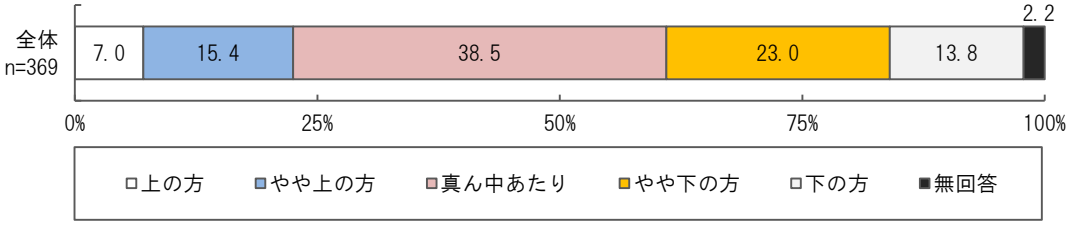


問38　中学３年生の頃の暮らし向き



○中学３年生時の学年での成績は、「上の方」と「やや上の方」を合わせた割合（22.4%）より、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合（36.8%）が高くなっています。

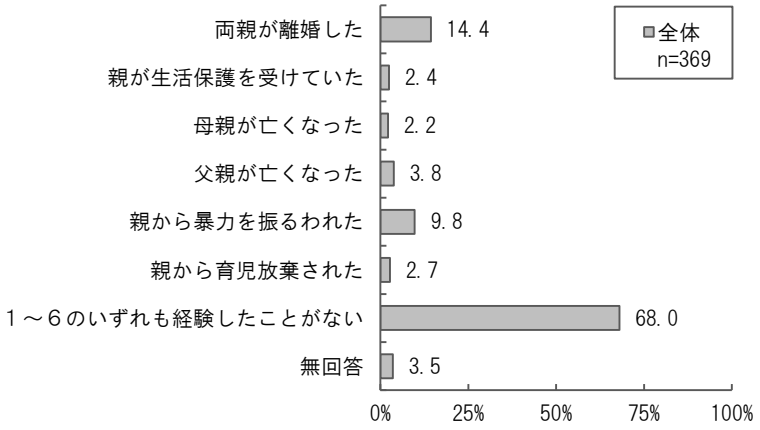
問39　中学３年生時の学年での成績



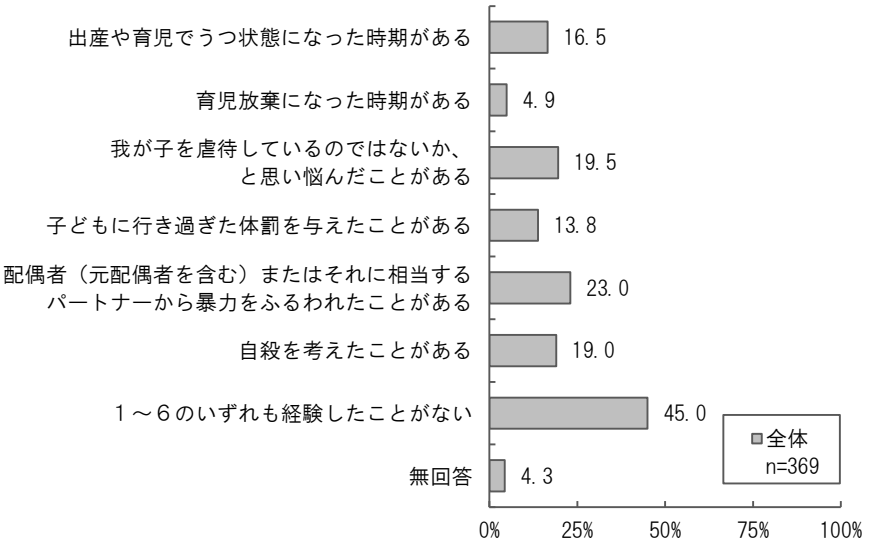
○成人前に体験したことは、「両親が離婚した」（14.4%）、「親から暴力を振るわれた」（9.8%）の割合が１割前後となっています。

○子育てに関わってから経験したことは、「配偶者（元配偶者を含む）またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある」（23.0%）が最も高く、次いで「我が子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」（19.5%）、「自殺を考えたことがある」（19.0%）が２割前後となっています。

問40　成人する前に体験したこと



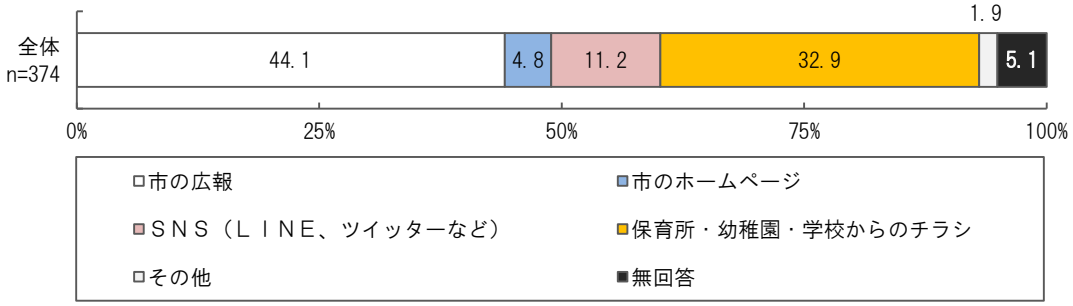
問41　子育てにかかわってから経験したこと



11　公的支援の利用状況について

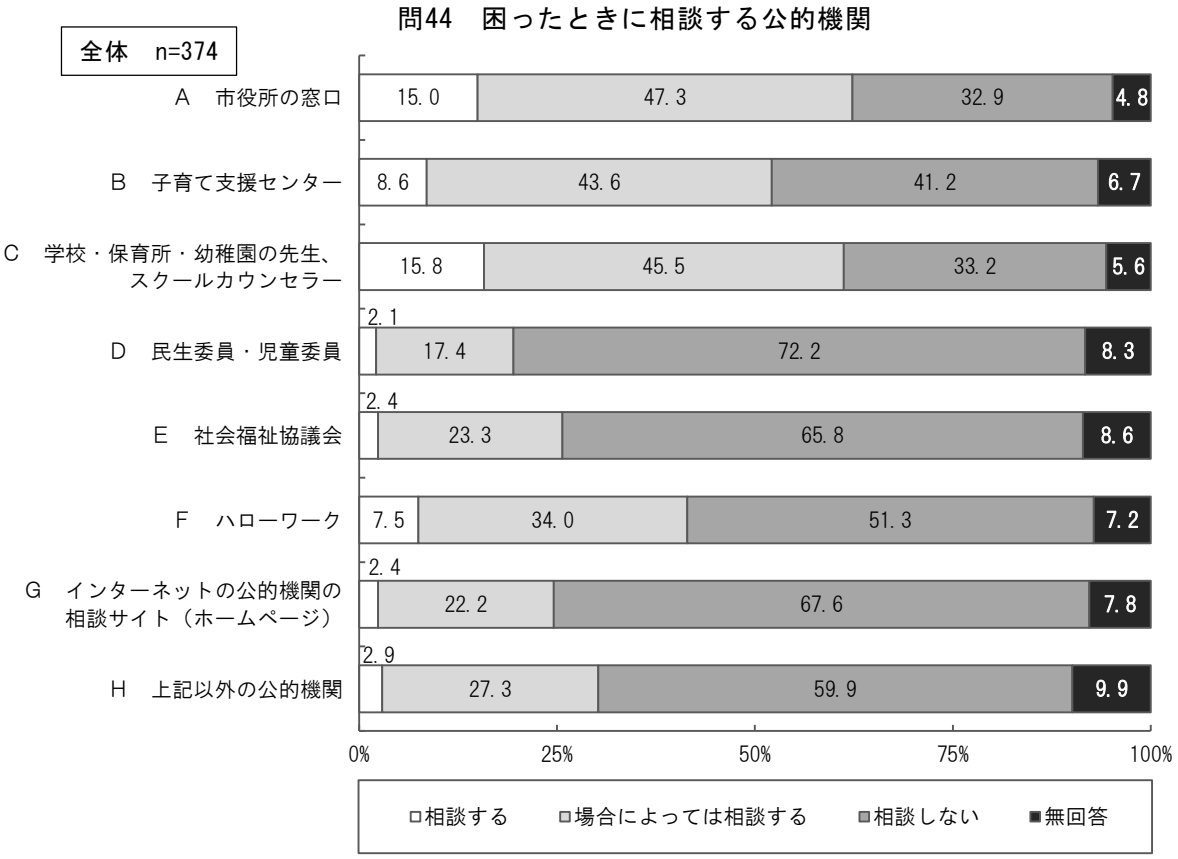
○子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法をみると、「市の広報」（44.1%）が最も高く、次いで「保育所・幼稚園・学校からのチラシ」（32.9%）、「ＳＮＳ（ＬＩＮＥ、ツイッターなど）」（11.2%）となっており、世帯類型での違いは見られず、広報や学校等からのチラシが多くを占めています。

問43　子どもに関する施策等の情報について希望する入手方法



○困った時に相談する公的機関をみると、「相談する」と「場合によっては相談する」を合わせた割合は、『市役所の窓口』（62.3%）が最も高く、次いで『学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラー』（61.3%）、『子育て支援センター』（52.2%）となっています。一方、「相談しない」割合は、『民生委員・児童委員』（72.2%）が最も高く、次いで『インターネットの公的機関の相談サイト（ホームページ）』（67.6%）、『社会福祉協議会』（65.8%）となっています。

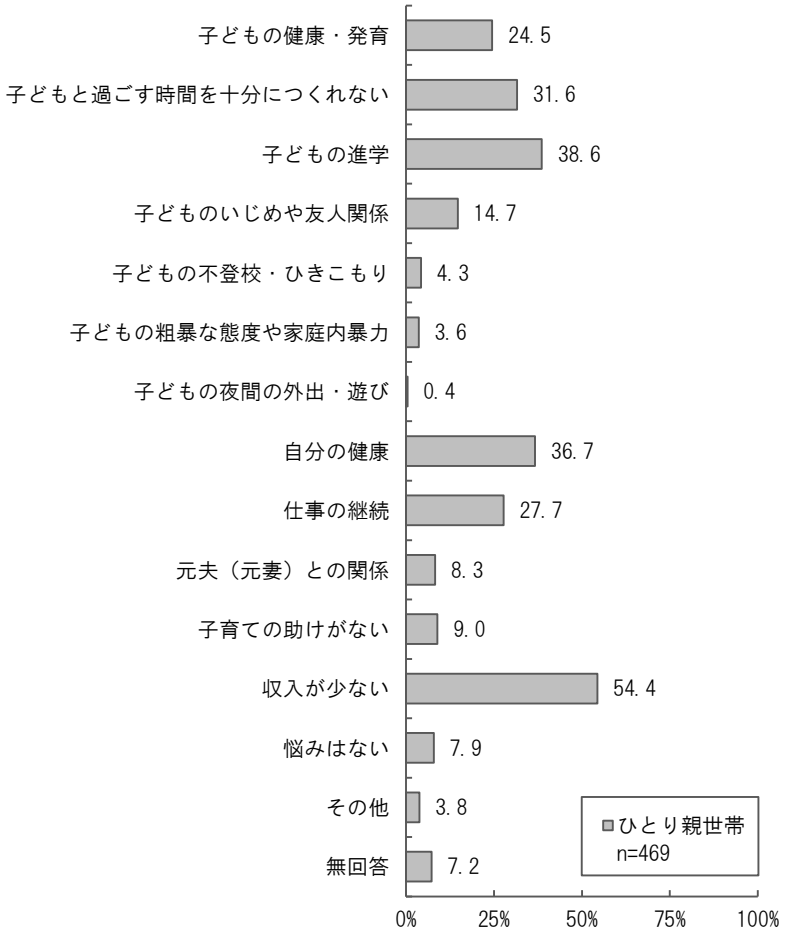
問44　困ったときに相談する公的機関



12　悩みごと等について（ひとり親世帯のみ）

○ひとり親世帯の半数以上が「収入が少ない」という悩みを現在抱えています。

問45　現在悩んでいること

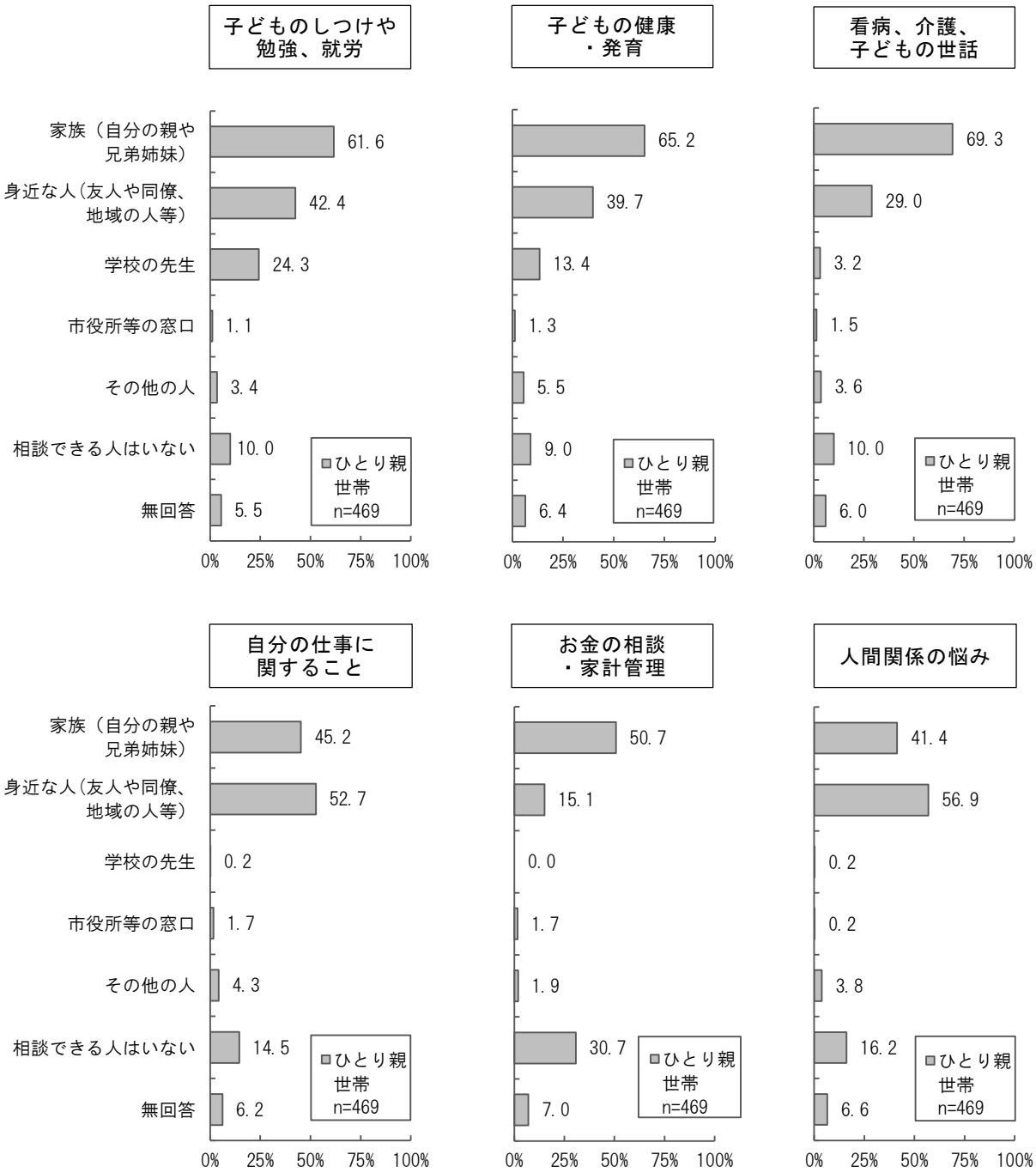


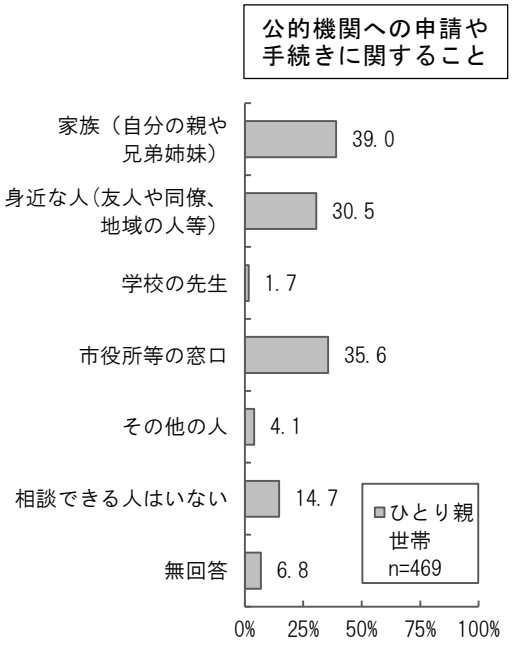
※ひとり親世帯…②、④、⑥、⑧（P5参照）の調査票に回答した方を合計しています。

○悩みごとを相談できる人をみると、『子どものしつけや勉強、就労』『子どもの健康・発育』『看病、介護、子どもの世話』『お金の相談・家計管理』『公的機関への申請や手続きに関すること』では「家族（自分の親や兄弟姉妹）」、『自分の仕事に関すること』『人間関係の悩み』では「身近な人（友人や同僚、地域の人等）」が最も高くなっています。

○『お金の相談・家計管理』では、「家族（自分の親や兄弟姉妹）」に次いで「相談できる人はいない」が３割を超えています。

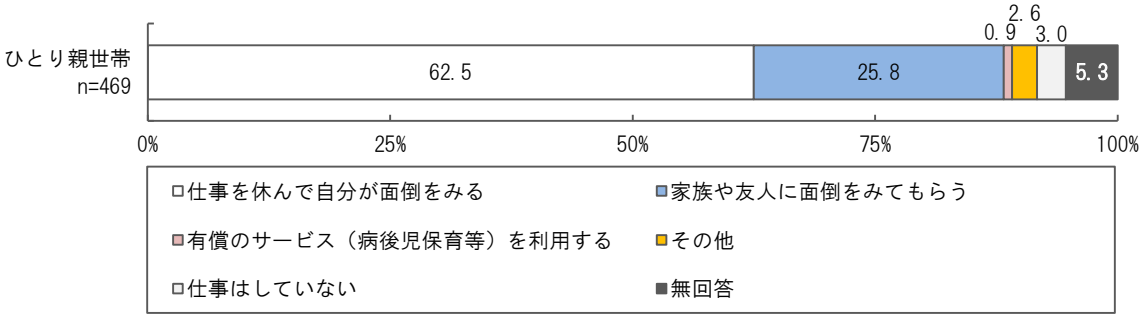
問46　悩みごとを相談できる人





○子どもが病気になったとき、約４世帯に１世帯が「家族や友人に面倒をみてもらう」（25.8%）や「有償のサービス（病後児保育等）を利用する」（0.9%）など自分以外が面倒をみると回答しています。

問47　子どもが病気になったときの対応



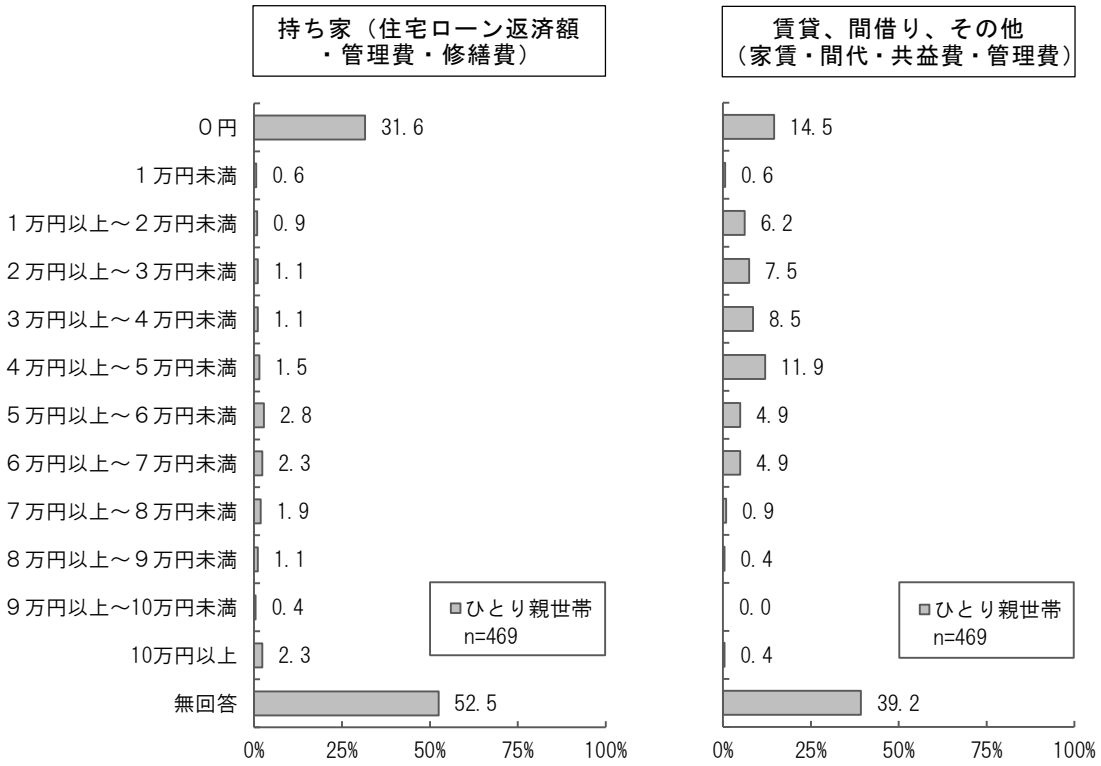
13　家庭の経済状況について（ひとり親世帯のみ）

○１か月あたりの住居費負担をみると、『持ち家（住宅ローン返済額・管理費・修繕費）』『賃貸、間借り、その他（家賃・間代・共益費・管理費）』ともに、「０円」（順に31.6％・14.5％）が最も高くなっています。

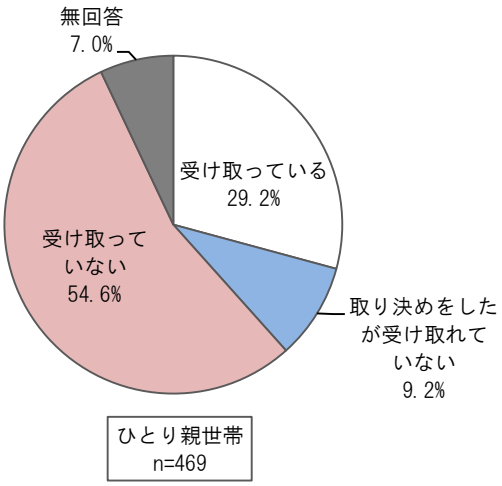
○養育費の取得状況は、「取り決めをしたが受け取れていない」「受け取っていない」を合わせると63.8％で、約３分の２の世帯が養育費を受け取っていない状況です。

○実家からの経済的援助は、約７割が「受けていない」（69.7％）状況です。

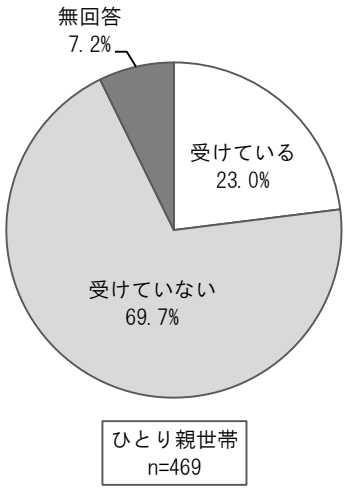
問48　１か月あたりの住居費負担



問49　養育費の取得状況



問50　実家からの経済的援助

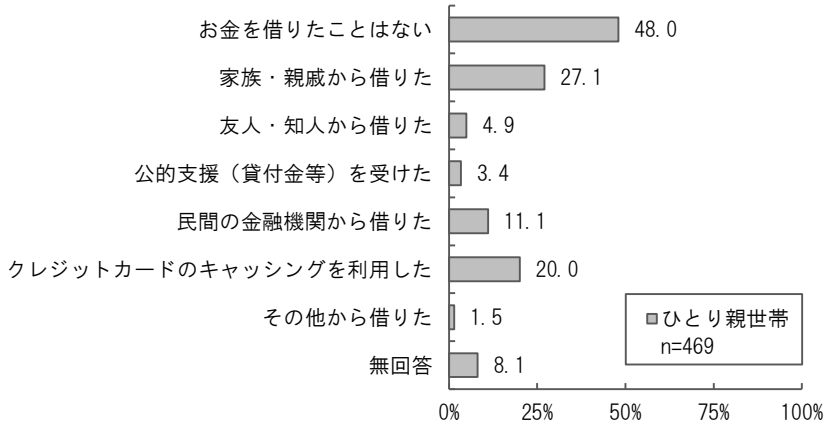


○ひとり親家庭となってからの借金の状況をみると、「家族・親戚から借りた」（27.1％）、「クレジットカードのキャッシングを利用した」（20.0％）で割合が高くなっています。

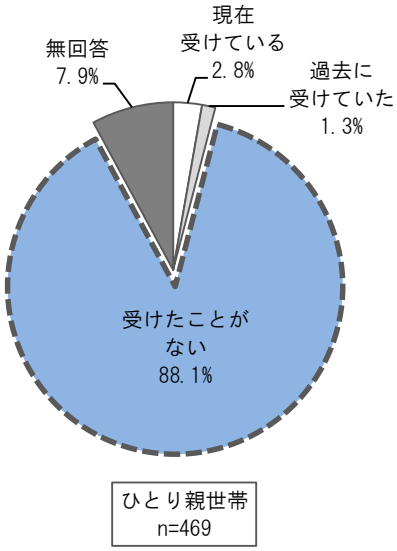
○ひとり親家庭となってからの生活保護の受給状況では、「現在受けている」と「過去に受けていた」を合わせると4.1％となっています。

○88.1％の世帯が生活保護を受給しない理由は、「経済的に必要がないから」（39.0％）が約４割となっています。

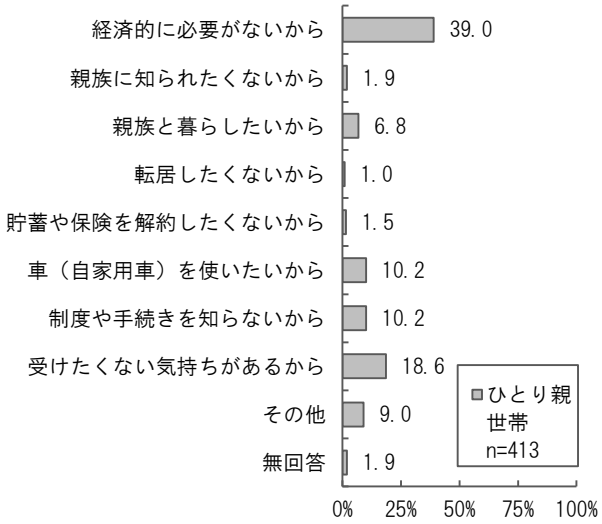
問51　ひとり親家庭としての借金の状況



問52(1)　ひとり親家庭としての生活保護受給状況



問52(2)受給したことがない理由

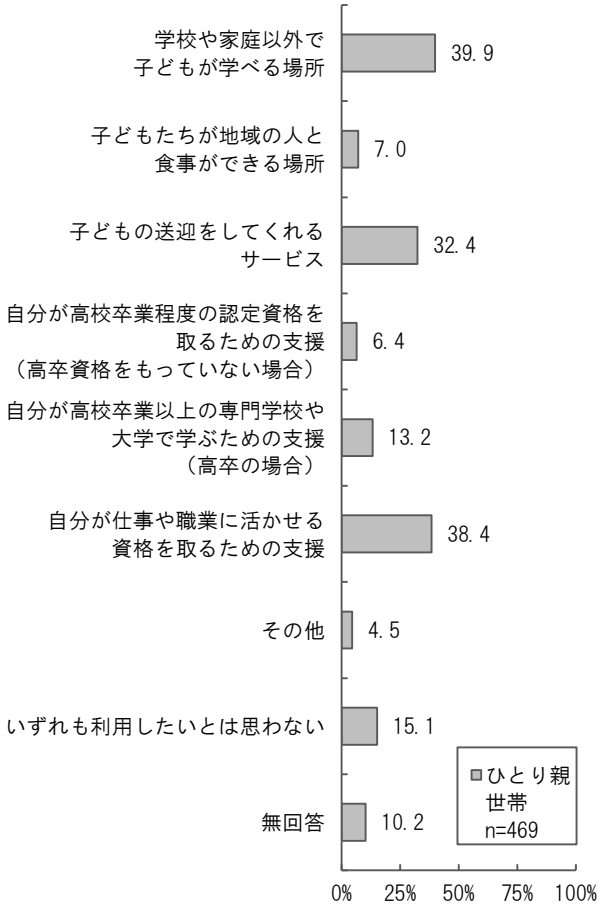


14　様々な支援制度について（ひとり親世帯のみ）

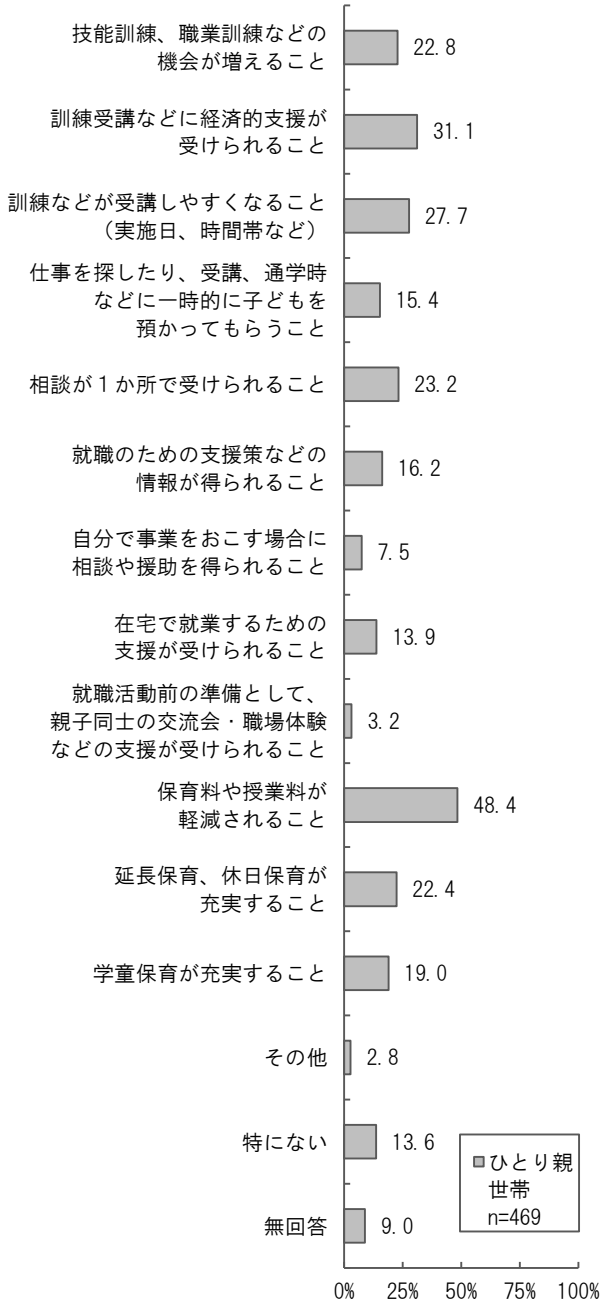
○利用したい支援やサービスをみると、「学校や家庭以外で子どもが学べる場所」（39.9%）、「自分が仕事や職業に活かせる資格を取るための支援」（38.4%）、「子どもの送迎をしてくれるサービス」（32.4%）で割合が高くなっています。

○よりよい就職や仕事のためにほしい支援は、「保育料や授業料が軽減されること」（48.4%）が約５割と高くなっています。

問53　利用したい支援やサービス



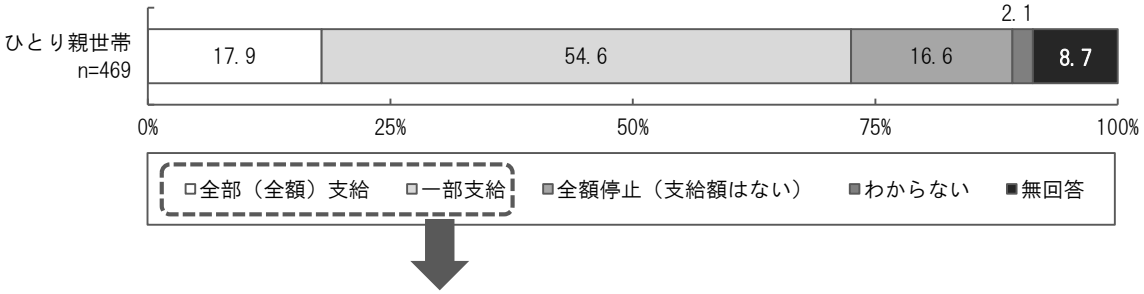
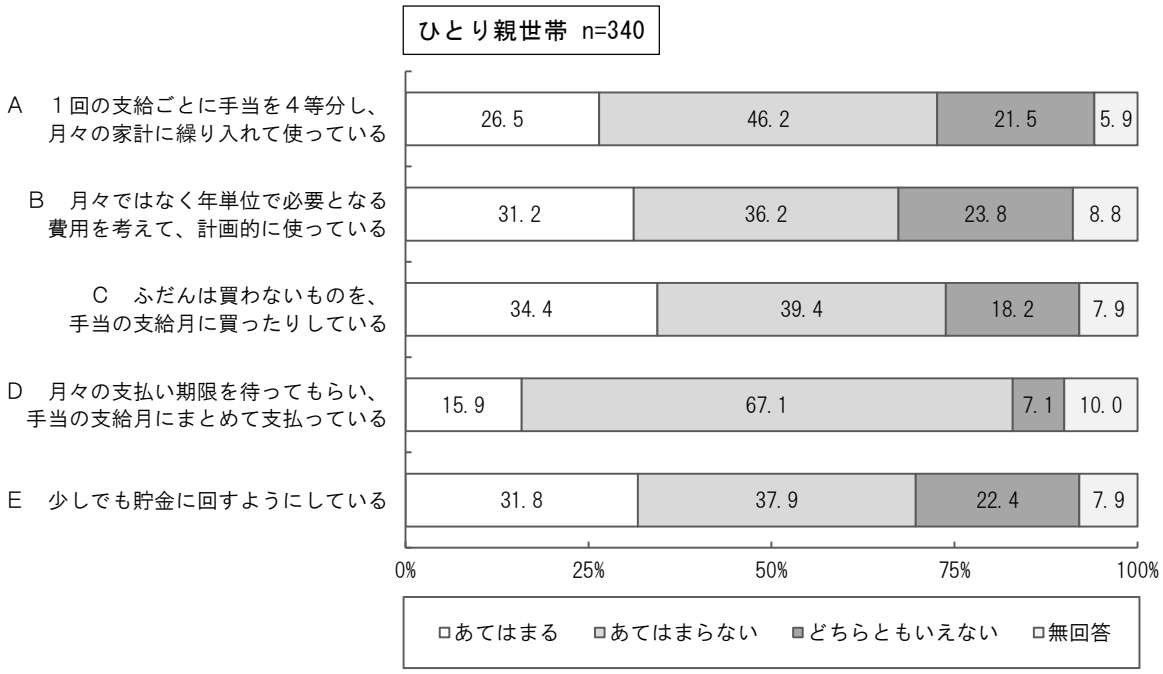
問54　よりよい就職や仕事のためにほしい支援



○児童扶養手当の支給状況は、「全部（全額）支給」と「一部支給」を合わせると72.5%となっています。

○支給された児童扶養手当の使途の配分をみると、「ふだんは買わないものを、手当の支給月に買ったりしている」（34.4%）、「少しでも貯金に回すようにしている」（31.8%）、「月々ではなく年単位で必要となる費用を考えて、計画的に使っている」（31.2%）が30%台となっています。

問55(1)　児童扶養手当の支給状況



問55(2)　児童扶養手当の配分